

博士前期課程

シラバス

(令和2年度)

2020

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- ・ **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- ・ **問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ・ **コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ・ **リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- ・ **省察力**
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced		
		1	2	3	4	
		自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。
A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。			世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力		仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
	A-4：問題発見・解決力		事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	A-5：挑戦力		新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
自ら道をひらく	A-6：コミュニケーション力		親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	A-7：リーダーシップ・協働力		集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者として他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	A-8：省察力		自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

文化情報専攻

必修科目

文化情報論特講	保坂 敏子	108
---------	-------	-----

文化研究コース

比較文学特講	秋草俊一郎	111
メディア文化論特講	榎本 正樹	114
翻訳論特講	井上 健	117
日本文化論特講 I	近藤 健史	120
日本文化論特講 I	野口 恵子	123
日本文化論特講 I	小田切文洋	126
日本文化論特講 II	長谷川正江	129
日本文化論特講 II	山崎真紀子	132
東アジア文化論特講	清水 享	135
中国語圏文化論特講	呉 川	138
ヨーロッパ言語圏文化論特講	秋草俊一郎	141
英語圏文化論特講	秋草俊一郎	144
児童文学特講	猪野 恵也	147

言語教育研究コース

言語教育学特講	島田めぐみ	150
言語学特講	保坂 道雄	153
異文化間コミュニケーション論特講	西田 司	156
社会言語学特講	石部 尚登	159
第二言語習得論特講	田嶋 倫雄	162
言語教育工学特講	保坂 敏子	165
言語教育デザイン論特講	豊田 哲也	168
日本語学特講	小野 正樹	171
日本語教育方法論特講	島田めぐみ	174
英語学特講	ラングハム C.S.	177
英語教育方法論特講	ロックリー・トーマス	180

専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	183
統計基礎 I	荒関 仁志	186
統計基礎 II	荒関 仁志	189
ゲーム理論	荒関 仁志	192

文化情報専攻

(シラバス)

シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	文化情報論特講	担当者	ホサカ トシコ 保坂 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文化情報専攻での研究活動を行う際に必要なリテラシーの涵養を目的とする。具体的には、テキストを対象とする文化研究、言語と文化の教育・学習活動を対象とする言語教育研究の基盤となる文化観の様相の理解、ならびに、研究方法や研究倫理に関する基本的な知識や認識の獲得を目指す。本講義において2つのコースの領域横断的な資質・能力を学修し、特別研究において領域固有の資質・能力を身に付ける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考能力をはじめ、倫理観、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文化情報分野において研究・論文作成をするのに必要な資質・能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化研究、および、言語教育研究の基盤となる文化観・文化の捉え方の様相について説明できる。 ・ある文化の捉え方について、別の文化観と比較できる。 ・「文化翻訳：文化の往還と変容」という文化観を理解し、具体的な事例が説明できる。 ・修士論文の作成に必要な先行研究・情報の収集方法や研究倫理、それぞれの分野の研究の進め方について理解し、自律的に論文作成に適用できる。 ・学術的な用語を正確に使い、剽窃を避けて注や引用などを適切に行うことができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を利用して、インタラクティブな個別指導と受講者同士の協働学習を行う。 ・オープンエデュケーション教材 (OER) や対面講義について、質疑応答やワークショップを行う。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p><通信授業 (在宅学習) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は基本教材1の(1)を熟読、後期は基本教材1の(2)を視聴し、参考図書等を参照して、レポート課題1と2を作成する。(自習・自主研究・レポート作成) ・レポート作成後は、manaba folio を使って、教師の個別添削指導を受け、改訂したレポートのピア・レスポンスを行い、その結果を踏まえて改訂したものを最終稿とする。(ディベート、レポート作成) <p><スクーリング (集中面接授業) 2単位分：基本教材2 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日間実施されるスクーリング (集中面接授業) に全日程出席する (単位取得要件) (ディベート)。なお、補講を実施する場合がある。 ・スクーリング後、指定された期限までにレポート課題をmanaba folio に提出する。(レポート作成) <p>【学修時間】</p> <p>在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</p>		
スケジュール	<p>本講義は大学院の初年度教育に相当するので、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業 (在宅学習) 2単位分：基本教材1 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期：レポート課題1 締切：6月末 (初稿)・前期締切日 (最終稿) ・後期：レポート課題2 締切：10月末 (初稿)・後期締切日 (最終稿) <p><スクーリング 2単位分> 日程は、講義要覧の学事日程を参照のこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー (三専攻合同講義) 2) 文化情報専攻分野における様々な課題 (担当：各科目担当教員) <ul style="list-style-type: none"> ・スクーリング・レポート課題1：スクーリング1週間後 (初稿のみ) ・スクーリング・レポート課題2：スクーリング終了の1か月後 (初稿のみ) 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学習)	50 %	<p>レポート40% (学術論文作成のスキル、課題に応じた内容) 観察記録10% (指摘への対応、期限遵守、ピアラーニング)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終期限に提出されなかった場合、評価外とする (0点)。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間際に提出した場合は、そのレポート課題の評価点はC以下となる。
	スクーリング	50 %	<p>レポート40%：課題1 10%、課題2 30% (論旨、構成、独創性、論文作成スキル) 観察記録10% (取り組み、討論、発表、期限遵守) 10%</p>
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・通信授業 (在宅学習) のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1 (通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 佐藤慎司・熊谷由理編 教材名： 『異文化コミュニケーション能力を問う－超文化コミュニケーション能力をめざして』 (ココ出版, 2013) ISBN: 978-4-904595-46-6 3,600円+税</p> <p>(2) 著者名： 秋草俊一郎, 井上健, 古賀太, 呉川, 椎名正博, Dorsey, John T., 保坂敏子, 松岡直美 教材名： JMOOC教材『文化翻訳入門－日本と世界の文化コミュニケーション－』 (講義映像：後期開始時に配信。一部スクーリングの際に配信する)</p> <p>教材(1)は言語教育(日本語・国語・英語)に携わる研究者が「異文化間コミュニケーション能力」の概念について再考したものである。「文化」「コミュニケーション」「能力」の概念の歴史の変遷と問題点を明らかにし、「超文化コミュニケーション能力」という新たな視点を示している。 教材(2)は2017年1月11日～2月22日に開講したJMOOC講座『文化翻訳入門－日本と世界の文化コミュニケーション－』(総合社会情報研究科制作)の講義映像と配布資料である。比較文化, 文学, 言語教育の研究者が、「文化翻訳」をキー概念に, 文化の翻訳・翻案・変容の事例を取り上げ, 解説する。</p>
参考図書	<p>(1) 西山教行・細川英雄・大木充編 『異文化間教育とは何か－グローバル人材育成のために』 (くろしお出版, 2015) ISBN-13: 978-4874246733 2,400円+税</p> <p>(2) 渡辺 靖 『〈文化〉を捉え直す－カルチュラル・セキュリティの発想(岩波新書)』(岩波書店, 2015) ISBN-13: 978-4004315735 842円(税込)</p> <p>(3) 『国際シンポジウム「文化翻訳が拓く異文化間コミュニケーション」報告書』(2016年2月22日開催 総合社会情報研究科主催 非売品 後期開始時にpdfで配布)</p>
履修上のポイント	<p>第三の文化や個の文化の提唱など, 文化の捉え方が問い直されている。それぞれの研究領域における文化の捉え方をクリティカルに検討していただきたい。 また, レポート作成過程でのピア・ラーニングを通じて考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1-(1)で第1部述べられている「文化」「コミュニケーション」「能力」の概念の変遷を整理した上で, 第2部の実践研究の一つを取り上げて要約し, その実践における「文化」の捉え方, 扱い方について他の文化観と比べながら自分の考えを論じる。(本文のみ3000字～4000字) 留意点: 参考図書(1)(2)も参照しながら, 要点を分かりやすくまとめて, 論考すること。 引用のルールに気を付けながら, 事実と意見, 自分の意見と他人の意見を区別して書くこと。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1-(2)を視聴し, 一つの講義, あるいは, 一人のテーマを選んで要約し, その講義での「文化翻訳」という考え方について説明する。それを踏まえて, 具体的な「文化翻訳」の例(作品例, 授業実践例)をとりあげて, 「文化翻訳」の様相を記述し, なぜそれが「文化翻訳」と言えるのか具体的に論じる。(本文のみ3000字～4000字) 留意点: 取り上げた講義の「文化翻訳」の捉え方について, ポイントをわかりやすくまとめる。</p>

基本教材 2 (スクーリング用)	
教材の概要	<p>著者名： 秋草俊一郎, 井上健, 古賀太, 呉川, 椎名正博, Dorsey, John T., 保坂敏子, 松岡直美 教材名： JMOOC教材『文化翻訳入門－日本と世界の文化コミュニケーション－』 (講義映像, 配布資料(関連論文):スクーリング開講前に提示・配布します)</p> <p>2018年1月11日～2月22日に開講したJMOOC講座『文化翻訳入門－日本と世界の文化コミュニケーション－』(総合社会情報研究科制作)の講義映像と配布資料である。比較文化, 文学, 言語教育の研究者が, 「文化翻訳」をキー概念に, 文化の翻訳・翻案・変容の事例を取り上げ, 解説する。</p>
参考図書	<p>佐藤望編著 『アカデミック・スキルズ(第2版)－大学生のための知的技法 入門』(慶應義塾大学出版会, 2012) ISBN-13: 978-4766419603 1,080円(税込)</p>
修上のポイント	<p>スクーリング前半においては, ①研究及び論文の最低条件を理解し, ②研究を進めるための基本的なスキルを身に付けるとともに, ③研究及び論文作成のモチベーションを高めることを目指す。後半においては, 各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して, 研究基盤となる知識・教養の習得に努める。いずれにおいても, 事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢がポイントとなる。</p>
レポート課題1	<p>スクーリングの合同講義と専攻別講義の概要をまとめ, 自分の意見を論じる。(1000字～1500字)</p>
レポート課題2	<p>各分野の研究手法の講義や参考図書, スクーリングでの発表と討論を踏まえて, 研究計画書をまとめて, 指導教員のレビューを受けた上で提出する。(3000字～4000字)</p>

基本教材 1 (在宅学習)

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～6 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：講義動画 week1 の視聴と基本教材 2
第 9 回	教材の学修：講義動画 week2 の視聴と基本教材 2
第 10 回	教材の学修：講義動画 week3 の視聴と基本教材 2
第 11 回	教材の学修：講義動画 week④の視聴お基本教材 2
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2 (スクーリング)

1	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	研究、及び論文作成に求められるもの (加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎)
2		主な研究スタイルと論文の構成ー研究目的の決め方と論証・検証の方法」 (加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎)
3		研究倫理 1 (田中堅一郎)
4		研究倫理 2 (田中堅一郎)
5		先行研究のレビューとその利用方法 (保坂敏子)
6		研究及び論文についての概論 (加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎)
7		研究及び論文の進め方 (加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎)
8	文化情報専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	比較文学 (秋草俊一郎)
9		日本文化論 I (野口恵子)
10		日本文化論 II (山崎真紀子)
11		東アジア文化論 (清水享)
12		中国語圏文化論 (呉川)
13		第二言語習得論 (田嶋倫雄)
14		日本語教育方法論 (島田めぐみ)
15		文化情報論 (保坂敏子)

※各講義については、1回あたり90分で実施する。

科目名	比較文学特講	担当者	アキクサ 秋草 ジュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>21 世紀の現在，国外で活躍する作家や，旧植民地にルーツがある作家が増えてきている。そのような作家の書く文学を指して，国文学を内包するものとして「日本語文学」と呼ぶこともある。そのような作家の言語に対する態度を記したエッセイや，その作品を実際に読むことで，母語を相対化する視点が文学作品にどのような影響をあたえるのか考えてみたい。そのような文学作品を熟読することは，当然ながら，わが国の「国語文化」を再考する機会にもなるだろう。同時に，現代における「国語」あるいは「国文学」ということば・概念の持つ意味を再考したい。文学以外が専門の受講生も歓迎する。</p> <p>以上の目的を達成することにより，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに，論理的・批判的思考能力をはじめ，問題発見・解決力，コミュニケーション能力，挑戦力，省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現在，文学を学ぶ上で重要な概念であるバイリンガリズムやポストコロニアリズムについて理解し，それが国語を構成する文学表現としてどう使われるのか知ること。またレポートの文章表現も，内容にふさわしい高いレベルを達成すること。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。文芸作品を精読し，自分のことばで分析できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては，草稿から最終稿に至るまで，履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。</p> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに，以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。</p> <p>7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。</p> <p>8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。</p> <p>前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。</p> <p>11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。</p> <p>12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。</p> <p>後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し，課題に応える内容となっているか，また，学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール，manaba 等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>レポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し，可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。引用については盗用にならないよう十分注意してほしい。manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど，積極的な参加を求める。ピアレビューは参加者の人数を見て実施する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 多和田葉子 教材名： 『エクソフォニー——母語の外へ出る旅』（岩波現代文庫，2012），ISBN 978-4006022112 860 円＋税 『かかを失くして 三人関係 文字移植』（講談社文芸文庫，2014），ISBN 978-4062902274 1500 円＋税</p> <p>多和田葉子は、ドイツで活躍する日本語・ドイツ語のバイリンガル作家であって、国際的な文学賞を数々受賞し、ノーベル賞に近いとも言われている。その代表的な評論と作品である。</p>
参考図書	多和田葉子『言葉と歩く日記』（岩波新書，2013），ISBN 978-4004314653 760 円＋税
履修上のポイント	「エクソフォニー」という多和田葉子による造語が意味する概念をつかんだうえで、その作品を読んでみてほしい。
レポート課題 1	『エクソフォニー』を読んで、そこに書かれている著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。（2000 字以上） 留意点： 単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。
レポート課題 2	『かかを失くして 三人関係 文字移植』に収められた短編のうち、どれか一作品を選び、作品について自由に論じなさい（引用・注・参考文献をのぞいて 3500 字以上，上限なし）。 留意点： ①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低二つ以上あげ、自説を説得的なものにすること，②選んだ作品からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 温又柔 教材名： 『台湾生まれ 日本語育ち』（白水社，2015），ISBN 978-4560084793 1,900 円＋税 『来福の家』（白水社，2016），ISBN 978-4560072080 1,400 円＋税</p> <p>温又柔は 1980 年生まれの比較的若い台湾出身の作家（母語は日本語）の作家である。</p>
参考図書	リービ英雄『日本語を書く部屋』（岩波書店，2011），ISBN 978-4006021917 860 円＋税
履修上のポイント	「台湾生まれ 日本語育ち」という著者のアイデンティティはどこにあるのか、場合によってはアメリカ出身の日本語作家リービ英雄とも比較しながら考えてみてほしい。
レポート課題 1	『台湾生まれ 日本語育ち』を読んで、著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。（2500 字以上） 留意点： 単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。また前期の多和田の態度とくらべるなど工夫してほしい。
レポート課題 2	『来福の家』を読み、作品について論じなさい。その際、自分で現代の「移民文学」を一作品選び（ただし温・多和田の作品以外）、その作品の内容を紹介し、温の作品と比較しながら論じること。（引用・参考文献・注をのぞいて 5000 字以上）。 留意点： ①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低三つ以上あげ、自説を説得的なものにすること，②『来福の家』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	メディア文化論特講	担当者	エノモト マサキ 榎本 正樹	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代日本のアニメーションは、エンターテインメントの一ジャンルを越えて、高い芸術性や文学性や思想性を帯びるに到っている。本授業では前期と後期、それぞれ現代日本を代表する二人のアニメーション監督、長井龍雪監督と新海誠監督の仕事に注目する。</p> <p>長井監督のテレビアニメ作品『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』(以下、『あの花』と略)は、きわめて今日的なテーマを含んだ文学的な作品である。作中で取り交わされる「言葉」に留意し、アニメーションという総合的な表現様式において、言葉(脚本)と映像(シーン)がどのように結びつき、融合しているのかを詳細に解読・分析し、自分の言葉で説明する能力の獲得を目指す。</p> <p>2011年4月から6月まで放送された『あの花』を、「震災後のアニメ」として定義し、作品的意味と意義について幅広く考察できる視点をもつことも到達目標である。『あの花』は秩父が舞台となった作品でもある。秩父という土地の歴史、伝承、地誌、民俗、習俗を踏まえつつ、作中のシーンに登場する「場所」の意味について考える力を養う。2019年には「秩父三部作完結編」である最新作『空の青さを知る人よ』が公開された。二作目の『心が叫びたがってるんだ。』を含め、場所と物語が融合した「ご当地アニメ」としての解読や、アニメ聖地巡礼という現象について多視点的に考察する力をつける。</p> <p>後期は新海誠監督の全作品を取りあげ、その作品世界を考察、分析する。新海監督のキャリアは2000年代初頭に遡ることができる。新海作品の根底にあるのもまた、「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線である。人と人との繊細なコミュニケーションを、独自の映像美学によって丁寧にすくい取る手法は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものである。</p> <p>新海誠の初期作品から最新作『天気の子』までの映像作品を参観しつつ、新海誠の表現世界を紐解くことで、同時代の先鋭的な表現者である新海監督の思想と方法を明らかにする。同時代の先端的な表現者である新海監督の主要作品を網羅的、分析的に解読する経験を通して、作品批評の方法論を獲得する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>同時代の最先端のアニメーション作品に触れて、その作品世界を理解する。また、映像表現であるアニメーション作品を多様な視点から分析、考察し、研究的な視座から言説化する能力を身につける。アニメーションは共同作業の産物である。作家論、作品論的な視点だけでなく、協働システムによって制作されるアニメーションという装置産業の特徴を念頭に置き、現場的な地点からも作品の制作プロセスについての総合的な知識を得る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>映像表現としてのアニメーションを批評言語によって論述できるようになる。一つひとつのカットやシーンがどのように接続され、一つの作品に構成されているのか説明できるようになる。アニメーション監督の「作家性」を、その作家固有のテーマやモチーフを通して検証する力を習得する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio でのディスカッションと状況共有、教員とのインタラクティブなコミュニケーションによって、レポート提出を目指す。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>まず、アニメーション作品の観賞から始める。各自、本授業の対象となる作品をレンタルまたはVOD、DVD やブルーレイを入手して観賞すること。その際、ノートを取りながら問題点や論点を整理する。さらに教材や参考資料を読み、自分が提出するレポートの構想を深める。作品の観賞(自習)、レポートの課題提出に向けた教材の精読、参考文献の参看、その他情報収集など(自主研究)、レポート作成という流れになる。レポート作成に必要な情報は必要に応じて適宜、提供する。</p>		
スケジュール	<p>前期：6月末までにレポート課題1の初稿を提出。 8月末までにレポート課題2の初稿を提出。 前期の最終稿の提出期限は前期締切日。</p> <p>後期：10月末までにレポート課題1の初稿を提出。 12月末までにレポート課題2の初稿を提出。 後期の最終稿の提出期限は後期締切日。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	作品の分析力、解読力、レポートの文章力、構成力、論考のレベル、課題へのレスポンス度などから総合的に評価します。
	観察記録	%	
履修者への要望	<p>日常的にアニメーションに触れる機会がなくても、映像表現やサブカルチャーや現代日本文学に関心がある方であれば学修できる授業内容である。アニメーション研究は、学問として完全に成り立っていないジャンルということもあり、雑誌やムックやネットの言説など、研究書や研究誌以外の様々なメディアを参看する必要がある。図書館の利用の他にネット検索を行い、自分が必要とする情報を収集するように心がけること。</p> <p>要望があれば、秩父でアニメ聖地巡礼のツアーを計画する。既存の概念や方法にとらわれない、意欲的なレポートを期待する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 榎本正樹 教材名： 『「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」全話完全解説』 (双葉社、2014年) ISBN:978-4-575-39742-9 1,300円＋税 現在品切れです。中古本を入手するか、Kindle等の電子書籍で入手のこと。</p> <p>テレビアニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』の全11話を完全分析。詳細な映像解析と言語分析によって作品の深層を読み解く。ゴースト・ストーリーとしての『あの花』の意味や、舞台となった秩父の歴史的文化的考察、さらに長井龍雪監督と脚本を担当した岡田麿里へのロングインタビューを収録。</p>
参考図書	超平和バスターズ『あの花／ここさけ／空青メモリアルブック 超平和バスターズの軌跡』(小学館、2019年) ISBN:978-4091793034 2,400円＋税
履修上のポイント	アニメーションを受動的に観賞するのではなく、分析的に解説するための方法を学び、実践すること。アニメーションは偶然性が入りこむ余地のある実写映画とは異なり、「作為」の産物である。すべてのカットやシーンは物語のシークエンスにおいて、必然的事象として意図的に組みこまれる。ほんの一瞬しか映らないカットや、登場人物の口にしたひと言が、重要な意味をもつ場合がある。作品に対して能動的な立ち位置に立ち、表現のディテールに配慮し、常に気づきをメモし、考察や分析へとつなげていくよう心がけること。
レポート課題 1	『あの花』のメインの六人の登場人物が、それぞれ物語の中でどのような「役割」や「機能」を付与されているか、エピソードや物語展開を踏まえ「キャラクター論」として、3,000字以上で論じる。 留意点： 人物紹介などの情報は、論に必要な最低限に留めること。六人それぞれの「特徴」を浮きあがらせることを念頭に置き、各キャラクターを対照的に論じること。
レポート課題 2	『あの花』の舞台である秩父の歴史や祭事や習俗について調べ、物語が発動する場所として秩父という土地が果たしている意味について考察し、3,000字以上で論じる。 留意点： 『あの花』に加え、『心が叫びたがってるんだ。』や『空の青さを知る人よ』などの「秩父三部作」を踏まえた上で、秩父という土地の描き方の変容について加味した論述でも構わない。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 榎本正樹 教材名： *新海誠と作品世界について論じた書き下ろしの評論を現在、出版準備中。後期授業開始前には刊行される予定なので、正式にアナウンスができる状況になった段階で告知する。</p> <p>新海誠のクリエイターとしての歩みと、新海監督の全作品について論考した評論集。巻末に新海監督のロングインタビューを掲載予定。</p>
参考図書	新海誠監督作品の劇場パンフレット。角川書店から刊行されている『新海誠 絵コンテ集』。公式ビジュアルガイド。美術画集。「新海誠展」図録など。参考図書は膨大にあるので、適宜必要なものをピックアップして活用すること。榎本が刊行予定の新海誠の書き下ろし評論の引用文献や参考図書文献も参考のこと。
履修上のポイント	新海監督はデビュー以前の最初期作品から最新作の『天気の子』まで、一貫してコミュニケーションとディスコミュニケーションの問題を扱ってきた。「距離」と「時間」にまつわる「断絶」的な状況が、各作品でどのように描かれ、作品ごとに固有の展開を見せるのかに留意しながら観賞すること。従来のアニメーション表現を越えた、緻密で美しい情景描写も新海監督作品の特徴である。緻密さ自体が重要なのではない。「緻密さによって表現されるもの(こと)」とは何なのか、という問いを常に意識して作品分析に臨むこと。
レポート課題 1	以下の二つの課題のうち一つを選ぶ。 (1)『天気の子』は、「人身御供譚」を活用した神話的、説話的な物語構造を備えた作品である。『天気の子』を現代版の人身御供譚として読み解く時、どのような解釈が可能か3,000字以上で論述する。 (2)過去作と比較しながら、『天気の子』で描かれる東京の情景の特殊性を3,000字以上で考察する。 留意点： 『天気の子』はストレートな青春映画であり恋愛映画だが、時代の抱えたネガティブな問題が主題化された作品でもある。それは直接的に明示される環境問題だけにとどまらない。政治や経済、社会や家族やメディアなど、あらゆる領域に及んでいる。この作品が含む主題を総合的にとらえる視点が必要になる。
レポート課題 2	新海誠監督作品から一作、または複数作を選んだ上で、自分の読みのポイントを明確にした上で、3,000字以上で作品論を展開する。レポートには自分で考えたタイトルを必ず付す。 留意点： 作品を深く解説していく中で、自分なりの疑問点や問題点が浮かびあがってくるはずである。テーマの設定や論述方法を含め、自分で考え、構想し、一つのレポートにまとめあげること。各自、自分の決めた異なるテーマに取り組むことになるので、個別に指導する。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章、第 4 章
第 2 回	作品鑑賞
第 3 回	関連資料の収集と分析
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 10 回	作品鑑賞
第 11 回	関連資料の収集と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2
第 2 回	作品鑑賞
第 3 回	関連資料の収集と分析
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2
第 9 回	作品鑑賞
第 10 回	関連資料の収集と分析
第 11 回	作品分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	翻訳論特講	担当者	イノウエケン 井上 健	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>近現代日本の翻訳文学を検討して、近代日本の文学者たちが、西欧文学から何を学び、そこから何を創り出していったのかを考える。あわせて、西欧語から日本語への翻訳の過程において、いかなる規範が作動していたのか、西欧文学を受け入れた結果として、近代日本の文学や文化のシステムがいかに書き換えられていったのかを検証する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 近代日本は、翻訳という操作を介在させ、西洋近代を摂取・消化し、自らの「雑種文化」(加藤周一)を形成していった。そんな過程を、翻訳研究、比較文学・比較文化研究の視点から再考することによって、日本近代文学・文化を捉え直す、学際的、相対的、複合的視野の涵養を目指す。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 異文化交渉の諸相を、翻訳というプロセスに着目することによって、具体的に、可視的に把握する能力を獲得する(知識・解釈・技能)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 レポート作成による。 まずは、教材および、レポートで取り上げる作品をきちんと精読してから、一次資料、二次資料の参照に進む。レポート作成にあたっては、「何を明らかにしたいのか」という命題から出発し、それに基づいた構成、章立てを考え、「何が明らかになったのか」が読者に明確に伝わるように記述する。その間、履修者と担当者間で、十分な質問やコメントのやり取りがあることが望ましい。</p> <p>【学修時間】 レポート作成に要する時間は45時間。翻訳論の基礎的文献にふれておく。</p>		
スケジュール	<p><前期>レポート課題1&2 締切り：8月末(初稿) 前期締切り日(最終稿)</p> <p><後期>レポート課題1&2 締切り：12月末(初稿) 後期締切り日(最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	論文にふさわしい構成、記述になっているか、結論に一定程度、独自性があるか、を判断基準とする。
	観察記録	10%	学習姿勢全般を評価の対象とする。
履修者への要望	<p>レポート執筆は、学位取得論文の基礎工事部分に相当する。短いレポートがしっかりまとめられなくては、学位論文執筆などとうてい覚束ない。まずは教材を、自分が主たる素材として取り上げようとする作品や言説のテキストを、しっかりと読み解くこと。その上で、そこから課題、テーマを発見し、その解決に必要な調査をする。manabaのコミュニティや掲示板など、学習ツールを積極的に活用することが望ましい。分量は特に指定しないが、5,000字ほどが一つの基準となる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 井上 健 教材名： 『文豪の翻訳力：近現代日本の作家翻訳』 （武田ランダムハウスジャパン，2011年） ISBN:978-4-27-000665-8 2,200円+税 谷崎潤一郎から村上春樹まで、近現代日本の作家たちが手掛けた翻訳の検討を通じて、日本の作家たちが西欧近代文学から何を学び取ろうとしたのか、翻訳を自ら手掛けることが、彼らの文学に、その主題や文体にいかなる影響を及ぼしたかを、歴史を追って論じたものである。主に戦後作家の翻訳を論じた後半は、翻訳術を学ぶ実践的教材としても利用できるように書かれている。 本教材が入手困難な場合は、雑誌『文学』（岩波書店）の2012年7,8月号「特集＝翻訳の創造力」（井上健「翻訳文学とジャンル生成試論」）を参照して頂きたい。
参考図書	安西徹雄『英文翻訳術』筑摩書房（ちくま学芸文庫，1995年）ISBN:978-4-48-008197-1 880円+税 柳父章『翻訳語成立事情』（岩波新書、1982年）ISBN: 978-4004201892 780円+税
履修上のポイント	翻訳という異言語・異文化を変換する営為の総体をとらえるには、その理論、歴史、実践を、それぞれにバランスよく目配りしつつ学び、そうして獲得したものを総合していく作業が不可欠である。本科目においては、まず英文を日本語に変換するに際して、そこにいかなる原則、方法を設定できるかを、参考図書を中心にして検証する。続いて、そうして得られた知見をもとに、教材として指定した書を通じて、近現代日本の翻訳文学を検討して、大正、昭和の日本文学者たちが、西欧文学から何を学び、そこから何を創り出していったのかを考察する。
レポート課題 1	英日翻訳の方法について、事例に即して、なるべく具体的に論じなさい。 留意点 ：品詞別（名詞、動詞、副詞など）、文法事項別（時制、話法、仮定法など）に主題を設定して、英日翻訳にはいかなる原理原則を設定することが可能であるかを、事例を引きつつ論じる。
レポート課題 2	翻訳文学が近現代日本文学に何をもたらしたかについて、作家、作品になるべく具体的に言及しつつ論じなさい。 留意点 ：近代日本の文学者たちが、西欧文学から何を、いかに受け入れていったのかを、訳文や文学作品を適宜、引用しつつ、具体的に検討する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 柳父章ほか編 教材名： 『日本の翻訳論：アンソロジーと解題』（法政大学出版局，2010年） ISBN:978-4-58-843616-1 3,300円+税 近代日本翻訳論のアンソロジーに解題を付したものの。近代日本において、翻訳文学、翻訳文化がいかなる機能を果たしてきたかを歴史的に把握することができる。
参考図書	佐藤・ロスベアグ＝ナナ（編）『トランスレーション・スタディーズ』（みすず書房，2011年） ISBN:978-4-62-207634-6 4,800円+税 三ツ木道夫（編）『思想史としての翻訳』（白水社、2008年）ISBN: 978-4-560-02477-5 3,400円+税
履修上のポイント	欧米の翻訳論、翻訳研究の歴史、水準に照らして、近代日本の翻訳論の系譜を、いかに評価し、いかに位置づけるかを検討する。参考図書は、1980年代以降、進展してきた、西欧の「翻訳学」（Translation Studies）の概要をたどり、その日本文化への適用の可能性を模索した論集。なお、欧米の「翻訳学」の優れた入門書としては、ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』（みすず書房，2009年）、アンソニー・ピム『翻訳理論の探求』（みすず書房、2010）、ベイカーほか『翻訳研究のキーワード』（研究社、2013）などがある。
レポート課題 1	日本の翻訳論から一篇を選んで、その主張するところをまとめ、それが翻訳論としていかなる歴史的意味を持つものであるかを論じなさい。 留意点 ：翻訳を論じる際に必要な用語や概念については、あらかじめ基礎知識を修得しておくことが望ましい。
レポート課題 2	日本の翻訳論から一篇を選んで、西欧語をベースとした翻訳論と比較することによって、翻訳および翻訳論の日本的特性について論じなさい。 留意点 ：比較文学・比較文化の視点に立脚して、日本と西欧との翻訳論を比較、検討する。西欧起源の翻訳論が、東アジアの言語を対象としたときに、どこまで有効なものであるか、という問いかけを常に念頭に置く。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修:基本教材 1
第 2 回	教材の学修:基本教材 1
第 3 回	教材の学修:基本教材 1
第 4 回	先行研究の検索と分析
第 5 回	先行研究の検索と分析
第 6 回	レポート課題 1:初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1:最終稿の作成
第 9 回	教材の学修:基本教材 1
第 10 回	教材の学修:基本教材 1
第 11 回	先行研究の検索と分析
第 12 回	先行研究の検索と分析
第 13 回	レポート課題 2:初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2:最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修:基本教材 2
第 2 回	教材の学修:基本教材 2
第 3 回	教材の学修:基本教材 2
第 4 回	先行研究の検索と分析
第 5 回	先行研究の検索と分析
第 6 回	レポート課題 1:初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1:最終稿の作成
第 9 回	教材の学修:基本教材 2
第 10 回	教材の学修:基本教材 2
第 11 回	先行研究の検索と分析
第 12 回	先行研究の検索と分析
第 13 回	レポート課題 2:初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2:最終稿の作成

科目名	日本文化論特講 I	担当者	コンドウ ケンシ 近藤 健史	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>古代日本人の人々が、外国からの「文化」や「言語・文字」を受け入れたことにより、何を創造したのかを考えることを目的とする。具体的には、奈良時代における東アジアとの異文化交流にあつて、日本人は何を創造したのか、どのように外国語と付き合っていたのか明らかにする。以上の目的を達成することにより、古代文化の豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考力をはじめ、問題発見・解決力、挑戦力、省察力、異文化を理解し説明する能力を獲得することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 日本文化の原点を考えることで、日本語や日本文化、東アジア文化など、国境を越えて移動する人々の言語と文化の様相を理解し、分析する能力を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 古代日本における異文化交流について説明できる。交流から創造された新しい文化を分析・探求できる。それを基に特徴と問題点を論述できる。現代社会における異文化交流に配慮できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 図書館・インターネットで、自立的に論文や資料を検索して、レポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材テキストを在宅学修・教材を熟読して、レポート課題について図書館や資料館などを利用し参考文献等を調査した後、レポートを作成し、教員より数回の添削指導を受けることを基本とする。</p> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：20時間 レポート執筆：10時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間</p>		
スケジュール	<p><前期>レポート課題1 締切り：6月末（初稿） 前期締切り日（最終稿） レポート課題2 締切り：8月末（初稿） 前期締切り日（最終稿） <後期>レポート課題1 締切り：10月末（初稿） 後期締切り日（最終稿） レポート課題2 締切り：12月末（初稿） 後期締切り日（最終稿）</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	教材・課題の理解度。レポートの論旨の一貫性、表現力、解釈の妥当性等。前期レポート課題1・2と後期レポート課題1は、最終稿で評価する。後期レポート課題2は、最終試験として初稿で評価する。
	観察記録	10%	レポート添削への対応等
履修者への要望	<p>1、参考文献に示したもの以外にも、関連する研究論文や資料を探して読むことを望む。 2、積極的な熱意のあるレポートを望む。 3、初稿の提出は、締切り日を厳守する。 4、レポート作成の基本的なルールを守ることを望む。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 上野誠 教材名： 『万葉びとの生活空間』（塙書房, はなわ新書 078, 2000 年) ISBN:978-4-82-734078-5 1,200 円+税
	本教材は、飛鳥・奈良時代の万葉びとが生活した空間の中で、どのような万葉歌の表現が生まれてきたのかについて述べている。具体的には、万葉びとと「都」「庭園」「耕作地」などの生活空間との関係である。
参考図書	上野誠『万葉びとの奈良』（新潮, 新潮選書, 2010 年) ISBN:978-4-10-603655-2, 1,100 円+税 渡瀬昌忠『渡瀬昌忠著作集 第六巻 島の宮の文学』（おうふう, 2003 年) ISBN:978-4-27-303256-2 12,000 円+税 辰巳正明『悲劇の宰相・長屋王』（講談社, 1989 年) ISBN:978-4-06-258019-9 参考文献は、教材の巻末に「参考文献一覧」と記してある。
履修上のポイント	東アジアにおいて、「武」の王から「文」の王に転じようと帝王たちは歴史に名を残す「庭園」を造ったという。わが国においても飛鳥・奈良時代から王の宮や個人の邸宅に「庭」が造られた。古代庭園の思想が、歌や生活とどのようにかかわるのかを理解することが大切である。 本教材の「はじめに」を必ず読むこと。教材のまとめではなく、参考文献や研究論文を参考にレポートを作成すること。
レポート課題 1	万葉びとの生活空間における「シマ」と呼ばれる庭園の文化的意味について論じる。 留意点 ：庭園が「シマ」と呼ばれる意味、「島の大い臣」の呼称、「島の宮」の主人、「島の宮」の歌（巻 2-171～193）などについて考えてみること。
レポート課題 2	長屋王の庭園、作宝楼における「菊花の宴」と「尾花の宴」の歌の場とその意味について論じる。また、二つの宴の様子を想像し、説明する。 留意点 ：「菊花の宴」（『懐風藻』66・68・71）と「尾花の宴」（『万葉集』巻 8-1637・1638）を理解すること。そして「菊花」「尾花の室」の意味することについて考えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 湯沢質幸 教材名： 『増補改訂 古代日本人と外国語—東アジア異文化の交流の言語世界—』（勉誠出版, 2010 年) ISBN:978-4-58-528002-6 2,800 円+税
	本教材は、古代日本における異国言語との格闘の歴史を明らかにしたものであり、「言語」から考える東アジア文化交流史である。なお「主要参考文献」が巻末にある。
参考図書	平川南他編『文字と古代日本 2-文字による交流—』（吉川弘文館, 2005 年) ISBN:978-4-64-207863-4 6,500 円+税 岸俊男編『日本の古代 14-ことばと文字—』（中央公論新社, 1996 年) ISBN:978-4-12-402547-7 1,748 円+税 大島正二『漢字伝来』（岩波書店, 2006 年) ISBN:978-4-00-431031-0 760 円+税
履修上のポイント	古代日本人は、東アジアの人々とのような言語で交流し対処していたかを学ぶ。 教材をまとめるのではなく、参考文献等により諸説を比較検討して欲しい。
レポート課題 1	古代日本人は、外国語に何を感じたのか論じる。 留意点 ：呉音・漢音・仏教界・儒学界などをキーワードとして考えること。
レポート課題 2	古代日本における「通訳」の役割と実態について論じる。 留意点 ：おさ・対象国・身分・養成などをキーワードとして考えること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の I 章を学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の II 章を学修
第 3 回	レポート課題 1 に関して、「参考文献一覧」などを参考に論文や資料を収集
第 4 回	古代日本の庭園や「シマ」と呼ばれる庭園の変遷について調べ、理解を深める
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成の準備・検討
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成・提出
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成・提出
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の III 章を学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の IV 章を学修
第 11 回	レポート課題 2 に関する論文や資料を収集して、長屋王や万葉時代の「宴」について調べ、理解を深める
第 12 回	レポート課題 2：初稿作成の準備・検討
第 13 回	レポート課題 2：初稿作成・提出
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成・提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1～3 章を学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 4・5 章を学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 6・7 章を学修
第 4 回	レポート課題 1 に関して、「主要参考文献一覧」などを参考に関係論文や資料を収集
第 5 回	渤海や唐・新羅などと古代日本との外交関係、そこで使用されていた言語について調べ、理解を深める
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成の準備・検討
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成・提出
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成・提出
第 10 回	レポート課題 2 に関して、「主要参考文献一覧」などを参考に関係論文や資料を収集
第 11 回	東アジアの中の通事と訳語、古代日本の対外認識について調べ、理解を深める
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成の準備・検討
第 13 回	レポート課題 2：初稿作成・提出
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成、
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成・提出

科目名	日本文化論特講 I	担当者	ノグチ ケイコ 野口 恵子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	古代の日本文学作品を取り上げる。日本の古代には、人々が共有していたルールが存在していた。21世紀の我々からすれば、つい我々の常識を当てはめてしまおうとするが、それでは古代の人びとの思考を理解することはできない。作品を読む際も同様で、古代の人々の共同性を想定する必要がある。この点を踏まえた上で、文学の生成と展開の様相はどのようなものなのかを自ら考え、その時代の文化的特徴を捉える。また、資料の扱い方、分析の方法といった研究手法も身につけることを目的とする。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 研究しながら、物の見方や総合的判断力を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 ① 古代の人々は、自らを取り巻く状況をどのように捉えていたのかを指摘する。 ② またこうした営みの継続は、現代社会における異文化に対する理解へと繋げることが可能であることを関係づける。 ③ 研究史の把握をすることで、これまでの研究状況とこれからの課題を理解する。 ④ 加えて、修士論文の執筆時に必要となる研究手法を、基本教材から体得し、応用する。		
学修方略 (方法)	① まずは基本教材を精読し、各章ごと内容をまとめる。それから課題に取り組む。理解が深まらない時は、同テーマの参考図書を精読する。比較することにより、他者の考えとの相違に気付く。(自習) 【SBO①】【20時間/レポート1本】 ② レポートの課題テーマに沿って、用例や情報の収集を行い、分析・整理をする。(自由研究) 【SB②】【10時間/レポート1本】 ③ レポートの草案を練る。その際、序論+本論+結論の構成に基づくこと。(レポート作成) 【SBO③】【10時間/レポート1本】 ④ manaba foliowo での掲示板機能を利用して受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたる教員によるレポート添削を行い、最終版を完成させる。(ディベート) 【SBO④】【5時間/レポート1本】		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)→6月末まで(初稿) 教材1のレポート課題(2)→8月末まで(初稿) 後期：教材2のレポート課題(1)→10月末まで(初稿) 教材2のレポート課題(2)→12月末まで(初稿) ※いずれも最終稿の提出期限は、前期は9月17日、後期は1月12日とする。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題にきちんと答えられているか、またレポートの体裁、例えば起承転結の構成になっているか評価する。
	観察記録	20%	提出物の有無やメール、manabaでの活用度、レポート添削に対する対応等の観察記録。
履修者への要望	基本教材に書かれている専門用語等、理解できない内容が見つかった場合は、すぐに教員に質問せず自分でまず調べて欲しい。自分で調べて理解した方が、身につけやすいからだ。もちろん、辞書などに説明がない内容もある。その場合は教員が指導する。 また、1度の精読で内容がまとめられなかった場合、そこであきらめずに、何度も読み返してみよう。私自身も何度も読み返している。論文の読解・執筆は、繰り返し行うほど学習効果が高い。 なお、履修登録を行う際に、履修登録した旨を書いたメールを担当教員：野口に送ってほしい(noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp)。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 古橋信孝 教材名： 『文学はなぜ必要か 日本文学&ミステリー案内』（笠間書院・2015年） ISBN:978-4-305-70784-0 2400円＋税
	なぜ文学が人間に必要なのかを考えている一書。同時に、言葉とはどういうものかという問いに向き合いながら、文学の面白さ、その時代にはどのような問題を孕んでいたのかなどにも触れている。そのような考えの中から、日本語の文学の流れにまで言及している。
参考図書	古橋信孝『神話・物語の文芸史』（ペリかん社・1992年）、『日本文芸史』【全8巻】（河出書房新社・1986～2005年）など
履修上のポイント	各時代を代表する文学作品を取り挙げている。それぞれの時代がどのような時代だったのか、また時代によって文学の性質が異なることにも留意してほしい。加えて、なぜその文学がその時代に要求されたのかについても考えて欲しい。なお、この教材は、著者がすでに論文で書いた内容を踏まえて書いている箇所が多々あるので、必要に応じて著者の論文も読む方が望ましい。
レポート課題 1	第1章から第6章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを述べなさい。（3000字） 留意点： 各章のタイトルは疑問形式で付けられている。その問いに対して、筆者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えをもっているのかを述べること。
レポート課題 2	第7章から第12章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを述べなさい。（3000字） 留意点： 各章のタイトルは疑問形式で付けられている。その問いに対して、筆者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えをもっているのかを述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 梶川信行 教材名： 『額田王―熟田津に船乗りせむと―』（ミネルヴァ書房・2009年） ISBN:978-4-623-05598-2 3000円＋税
	『万葉集』の女流歌人として名高い額田王は、生身の実態を持った存在ではない。本書では、七世紀に実在した皇裔の一人で、『万葉集』に「額田王」として名を残した女性を捉えようとしている。そして、そのような彼女の動きの中で、いかに作品が生まれたのかを考えている一書である。
参考図書	梶川信行『創られた万葉の歌人 額田王』（はなわ書房・2000年）、多田一臣『額田王論―万葉論集―』（若草書房・2001年）など
履修上のポイント	『万葉集』に「額田王」として名を残した女性と、『日本書紀』に「額田姫王」として名を残した女性とは同一人物である。しかし、文学作品と歴史書という編纂目的が異なる書物では、同一人物であっても扱い方が異なっている。その違いに留意すること。また、本書から、資料の扱い方や資料の分析方法などの研究手法を学んでほしい。
レポート課題 1	「宮廷歌人」として、額田王はどのような役割を担っていたのかを、具体例を挙げながら説明しなさい。（3000字） 留意点： 「宮廷歌人」は、古代の官僚制度の中に存在しない呼称である。そのような呼称で額田王を捉えることによってどのような問題を孕んでいるのかについても留意してほしい。
レポート課題 2	天智挽歌群と持統朝の作品における額田王の作歌状況は、それまでの作品とは異なる。両者を比べてどのように変化しているのか、それぞれ説明しなさい。（3000字） 留意点： 天智天皇の死後、作歌状況において明らかな違いが見られる。例えば、天武天皇の時代の作品が一首も残されていないなど。そのような違いを見逃さないでほしい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章から 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章から 4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 3 の 5 章から 6 章
第 4 回	レポート課題 1：参考文献収集作業とレポートの構成を考える
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：個別指導による内容の検討
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：個別指導による内容について、レポート課題 2 に向けて学修の振り返り
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章から 8 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の 9 章から 10 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の 11 章から 12 章
第 12 回	レポート課題 2：参考文献収集作業とレポートの構成を考える
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：個別指導による内容の検討
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 のプロローグ章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 2 章
第 4 回	レポート課題 1：参考文献収集作業とレポートの構成を考える
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：個別指導による内容の検討
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：個別指導による内容について、レポート課題 2 に向けて学修の振り返り
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の 4 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 のエピローグ章
第 12 回	レポート課題 2：参考文献収集作業とレポートの構成を考える
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：個別指導による内容の検討
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本文化論特講 I	担当者	オタギリ 小田切 フミヒロ 文 洋	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>日本の古典詩歌の本質を考えることは、日本文化の核心を考えることにもつながる。日本の古典詩歌の歴史には、時代ごとの特色があり、それぞれに豊かな成果がある。古典詩歌の多様性を体験する中から、個々の作品を貫く原理や詩歌史の連続性を考えることが目的となる。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的批判能力を育成し、問題発見とその解決能力、コミュニケーション能力、省察の能力が身に付けられることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 古典の読解力を高めるとともに、日本文学研究、または比較文学研究に必要な専門性を修得することが目標となる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 古典詩歌の解釈を踏まえて、日本の伝統詩形の本質を理解する。古典詩歌の解釈に必要な注釈書や辞書の活用の仕方、データベースの運用能力など、総じて古典解釈の応用力を修得する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使った対話型の添削指導を丁寧実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 レポートと自習を中心とする。文学研究一般に通じることだが、個々の研究テーマに即して基本となるテキストを精密に解説する。図書館、またインターネットを活用して、研究に必要な論文や文献を調査し、研究動向を理解しながら自主的にレポートを作成する。</p> <p>【学修時間】 学修時間は、仕事の負担量との兼ね合いで決まるが、課題レポート1本につき最低45時間の学習時間が求められていることを念頭に置き、課題をまとめるように。目安としては、教材の学修：30時間 レポートの執筆：10時間 レポートの推敲と最終稿の完成(指導教員の指導を含む)：5時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切：6月末(初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切：8月末(初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切：10月末(初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切：12月末(初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの内容(論文の構成力・引用文献の適切性・研究成果の有意義性)
	観察記録	20%	草稿から最終稿提出までの間の質疑応答
履修者への要望	<p>レポート課題は細かく設定していません。ご自分の研究テーマに合わせて課題の変更は可能なので、受講する場合は一度ご連絡下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 大岡信 教材名： 『うたげと孤心』岩波文庫，2017年(ISBM978-4-00-312022-4、910円+税)</p> <p>この著作で「うたげ」というのは、「笑いの共有。心の感合。二人以上の人々が団欒して生み出すもの」をいう。日本詩歌の創作の場にはたえずこの「うたげ」の原理が強く働いていた。同時にそれと相反する創作者の「孤心」が深められ、両者が緊張的に牽引しあうことで、古典詩歌の名作は生まれてきた。</p>
参考図書	<p>大岡信『日本の詩歌 その骨組みと素肌』岩波文庫，2017年 井上宗雄・武川忠一編『新編和歌の解釈と鑑賞事典』笠間書院，1999年 尼ヶ崎彬『花鳥の使い 歌の道の詩学Ⅰ』勁草書房，1995年 川本皓嗣『日本詩歌の伝統一七五七の詩学一』岩波書店，1991年 藤井貞和編『折口信夫古典詩歌論』岩波文庫，2012年 風巻景次郎『中世の文学伝統』岩波文庫，1985年</p>
履修上のポイント	<p>日本の古典詩歌は、和歌(『古今和歌集』『新古今和歌集』『拾遺愚草』など)・連歌(『水無瀬三吟』『湯山三吟』など)・俳諧(『芭蕉七部集』『蕪村七部集』など)・歌謡(『梁塵秘抄』など)の各ジャンルで多くの名作がある。歴史と伝統を背景にした古典詩歌を論ずることは、日本文学の独自性を考えることであり、日本的美意識を明らかにすることにもなる(日本歌学を美学から分析した、大西克礼『幽玄とあはれ』岩波書店，1939年のような研究もある)。幸田露伴や現代詩人の安東次男が評釈している芭蕉連句は、心の通う者同士の座を背景に「孤心」を鋭く磨いて時代の頂点に立つ作品である(安東次男『芭蕉連句評釈 上・下』講談社学術文庫，1993・1994年)。</p>
レポート課題 1	<p>日本古典詩歌史上の名作(作品集，または詩人)を一つ選び，作品の分析を中心に大岡信の問題提起も踏まえてレポートをまとめる 留意点：テーマが決まったら，個別の参考図書を指示する。</p>
レポート課題 2	<p>レポート課題 1 と同じ。 留意点：先行研究の調査には，CiNii(http://ci.nii.ac.jp/)や国文学論文目録データベース(http://basel.nijl.ac.jp/~rombun/)などのデータベースを活用する。原資料の調査には，国立公文書館デジタルアーカイブ https://www.digital.archives.go.jp/や国立国会図書館デジタルコレクション http://dl.ndl.go.jp/などを利用する。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 大岡信『詩人・菅原道真 うつしの美学』岩波現代文庫，2008年 教材名： (ISBM978-4-00-602136-8、900円+税)</p> <p>大岡信はこの著作の中で、「写す・映す・移す」の意味を含む「うつし」の概念から日本文化の本質を考えている。中国の古典詩形を移入しながら，模倣から高次の創作へと深めていった道真の詩の世界が縦横に論じられている。「力強い構築性をもった叙事的精神」と「内面の抒情的な叫び」とが有機的な繋がりを持ちながら道真の内面において詩的の一体性を形作っていると大岡は指摘している。</p>
参考図書	<p>菅野禮行・徳田武校注訳『日本漢詩集』(『日本古典文学全集 86』小学館，2002年 揖斐高訳注『柏木如亭詩集 1・2』(東洋文庫 882・883)平凡社，2017年 富士川英郎『江戸後期の詩人たち』(東洋文庫 816)平凡社，2012年 富士川英郎『菅茶山と頼山陽』(東洋文庫 195)平凡社，1971年 揖斐高訳注『頼山陽詩選』岩波文庫，2012年 中村真一郎『頼山陽とその時代 上・下』ちくま学芸文庫，2017年 大野修作『広瀬旭荘』研文出版，1999年 三好達治『諷詠十二月』講談社文芸文庫，2016年 吉川幸次郎・三好達治『新唐詩選』岩波新書，1952年 小川環樹『唐詩概説』岩波文庫，2005年 佐藤保『講義 漢詩入門』ちくま学芸文庫，2019年</p>
履修上のポイント	<p>日本漢詩の歴史は，菅原道真を最大の詩人とする王朝時代，夏目漱石が愛読した『蕉堅藁』の作者絶海中津ら禅者たちの活躍する五山時代を経て，儒学が普及し多くの詩人たちが輩出する江戸時代に大別することができる。江戸漢詩の魅力を発見したのはヨーロッパ文学者である。漢詩という詩形の面白さを鑑賞したい。漢詩は東アジアの各地域で作られたが，本場の中国で日本漢詩がどう評価されているか考えるのも一つの視点になる(李寅生著 宇野直人他監訳『漢詩名作集成 日本編』明德出版，2016年，中国では劉硯・馬沁選編『日本漢詩新編』安徽文芸出版社，1985年など，日本漢詩の詞華集が数種出ている)。</p>
レポート課題 1	<p>外国からの文化移入とそれを高次の概念に昇華していく文化的営為という，日本文化の本質的な問題を指摘した大岡の視点を踏まえながら，日本漢詩の三つの時代の中から一人の詩人を選び，その作品を鑑賞しなさい。 留意点：テーマが決まったら，個別の参考図書を指示する。</p>
レポート課題 2	<p>レポート課題 1 と同じ。 留意点：</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 「歌と～」「贈答と～」 （基本教材の目次の順に進めてください）
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 「公子～」 「帝王と」
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 「今様～」
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 「狂言綺語～」
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の講評
第 9 回	先行論文の検索と分析
第 10 回	先行論文の検索と分析
第 11 回	テキストの分析法と理論的考察
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の講評

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 「はじめに」 の章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 I
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 II
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 III
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 IV
第 6 回	教材の学修：基本教材 2 V
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	先行論文の検索と分析
第 11 回	テキストの分析法と理論的考察
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1：最終稿の講評

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ハセガワ マサエ 長谷川 正江	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>江戸時代の文化・文学を、主として民間出版業の興隆を背景とする出版文化の成立の視点から検討する。当初天皇家の勅版、将軍家の官版に発した出版は、次第に私家版から民間の出版業者へとその中心を移す。和漢の古典籍の刊行に始まり仮名草子、浮世草子、俳諧等の新作の文芸書、正本や絵入狂言本等の演劇関係書、名所・遊里案内書や遊女評判記、役者評判記等の遊興のガイドブック、絵本・浮世絵等の美術、重宝記や節用集等の実用書といった世界に類例を見ない多種多様な江戸時代の刊行物が今日に遺る。現代のサブカルチャーに繋がる文化の大衆化路線を視野に、江戸時代のマスコミ業界の実態に迫る。</p> <p>以上の目的を達成することにより、当時の歴史的背景を踏まえた上での論理的・批判的思考力を養い、問題発見・解決力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代における大衆文化の形成過程とその今日的意義を理解し得る能力(知識・態度・技能)を習得する。 <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員・各種メディア関係者・博物館学芸員・図書館司書等の勤務において、日本文化の特徴を外部に発信できる。 日本文化の特徴を日本人のみならず、外国人にも教授できる。 崩し字 OCR を活用し、その利点と今後の課題・改善点を論述できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受ける。 manaba folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 manaba folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行う。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館やデータベースを利用して、参考文献を調査し、レポートを作成する。 <p>【学修時間】</p> <p>レポート1 課題につき、完成までに最低 45 時間の学修時間を要する。 1) 教材の学修:20 時間 2) レポート執筆:10 時間 3) レポート推敲と最終稿の完成:15 時間</p>		
スケジュール	<p>〈前期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1・2 締切:初稿 7月末 最終稿 前期締切日 <p>〈後期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1・2 締切:初稿 11月末 最終稿 後期締切日 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポートの内容(構成, 論旨, 引用文献, 独創性) : 60% 提出状況(期限の順守, 初稿から最終稿までの提出回数と改善度等) : 20%
	観察記録	20 %	教師のレポート添削に対する対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 学部時代に日本文学を専攻していなくても差し支えないが、江戸時代の文学史の概略に対する理解を求める。 各図書館や資料館等においては古典籍類のデータベース化や画像公開が飛躍的に進んでおり、PCを利用して積極的に閲覧利用されたい。崩し字読解システムも複数公開されており、初心者でもゲーム感覚で取り組めるようになりつつある。 浮世絵を中心とする江戸時代の絵画、歌舞伎・文楽等の古典芸能に親しむ姿勢を養ってもらいたい。展覧会も積極的に観覧してもらいたい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 中野三敏 監修 教材名： 『江戸の出版』（ペリかん社，2005年）ISBN:978-4-83-151120-1 3,800円+税
	江戸時代の書物は外形など書誌的特徴が内容のある程度規定するといった意味合いがあり、実際に原本を手にとると、また別の親しみと興味が湧いてくるという楽しみがある。現実として通信制の講義では、そうした場が持ちにくいことも事実だが、本書は出版という営為を通して、刊行物の製作・流通を視野に入れた立体的な文化史を構築することを目指した論集である。
参考図書	長友千代治『江戸時代の図書流通』思文閣出版 2002年，木村八重子『草双紙の世界 江戸の出版文化』ペリかん社，2009年
履修上のポイント	教材はあくまで江戸時代の本屋・出版，流通のありかたや書誌について書かれたもので，具体的な作品については各自で目を通してもらうことになる。文芸評論や作品評価を求めているわけではなく，当時の書物の製作現場や享受といった文化史的な興味を持ってもらえれば幸いである。
レポート課題 1	近世初頭から享保期までの商業出版の変遷について，当時「三都」と称された京都・大坂・江戸の地域的特徴に注目して述べなさい。 留意点： 以下の語を必ず含むこと。：嵯峨本・仮名草子・浮世草子・俳書・正本・武鑑 三都の本屋仲間成立と享保七年の「出版条目」発布には必ず触れること。
レポート課題 2	江戸時代における草双紙出版の様相について版元（絵草紙屋）の動向に注目して述べなさい。 留意点： 以下の語を必ず含むこと。：地本・地本間屋・赤本・黒本・青本・黄表紙・合巻・浮世絵「草双紙」以外の戯作に触れる必要はない

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高田衛・有働裕・佐伯孝弘 編集 教材名： 『西鶴と浮世草子研究 vol.2 怪異』（笠間書院，2007年） ISBN:978-4-30-560202-2 2,500円+税
	江戸時代には仮名草子の時代から絵入りの怪異小説集が多数出版されたことで，人々の想像力を大いに刺激した。その結果類話やパリエーションを数多く生み出した。こうした怪談の豊饒さは小泉八雲のような外国人をも魅了したのである。本書は付録 CD に怪異物挿絵を収録し検索機能を付しており，視覚的に作品理解を助ける構成となっている。
参考図書	東アジア怪異学会編『怪異学入門』岩田書院 2012年，伊藤慎吾編『妖怪・憑依・擬人化の文化史』笠間書院 2016年，
履修上のポイント	付録 CD には，底本とした活字翻刻されたテキストを明記しているので，各自が必要に応じて作品を読むことを希望する。
レポート課題 1	西鶴作品の怪談・奇談を最低一話取り上げて，その特質につき自由に論ぜよ。 留意点： 怪談・奇談の範囲は広く解釈して構わない。具体的には『西鶴諸国はなし』や『懐硯』といった雑話物が中心となるだろうが，好色物中の怪異譚を取り上げても差し支えない。
レポート課題 2	西鶴以外の作者による怪談・奇談を最低一話取り上げて，その特質につき自由に論ぜよ。 留意点： 怪談・奇談の範囲は広く解釈してよいが，基本的には CD 収録作品中から選択すること。仮名草子・浮世草子いずれも可。収録作品以外，例えば上田秋成等の初期読本と比較する視点があっても差し支えない。

基本教材 1

第 1 回	江戸の出版 前期概説 古活字版から整版へ
第 2 回	江戸の出版 京都・大坂・江戸 三都の出版の特徴と出版書肆
第 3 回	江戸の出版 享保七年発布「出版条目」とその影響
第 4 回	レポート課題 1 初稿提出
第 5 回	添削
第 6 回	レポート課題 1 第 2 稿提出
第 7 回	添削
第 8 回	レポート課題 1 最終稿提出
第 9 回	江戸の出版 草双紙概説
第 10 回	江戸の出版 書物問屋と地本問屋
第 11 回	レポート課題 2 初稿提出
第 12 回	添削
第 13 回	レポート課題 2 第 2 稿提出
第 14 回	添削
第 15 回	レポート課題 2 最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	仮名草子時代の怪異小説
第 2 回	西鶴の怪異小説と諸国の奇談
第 3 回	西鶴作品の影響と他の浮世草子作者
第 4 回	レポート課題 1 初稿提出
第 5 回	添削
第 6 回	レポート課題 1 第 2 稿提出
第 7 回	添削
第 8 回	レポート課題 1 最終稿提出
第 9 回	西鶴以降の浮世草子の怪異小説 概説
第 10 回	近世中期における怪談・奇談の流行
第 11 回	レポート課題 2 初稿提出
第 12 回	添削
第 13 回	レポート課題 2 第 2 稿提出
第 14 回	添削
第 15 回	レポート課題 2 最終稿提出

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマザキ 山崎 マキコ 真紀子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>明治期から現代までの近現代文学を学ぶことで、豊かな知識を養い、論理的かつ批判的思考力を涵養することを目的とする。</p> <p>I. 小説の書かれた時代を理解し、当時の政治・経済・文化の交錯の上に成り立っていることを自ら調べて学ぶことができる。</p> <p>II. 小説を読むうえで、断片的な出来事がどのような時間配列のもとで物語が構成されているかを自ら考えることができる。</p> <p>III. 日本近現代文学作品をレトリックや表現の緻密さに留意し、分析的に読む力を自ら切り開くことができる。</p> <p>IV. 以上の目的を踏まえて、自らが立論し論文としてまとめることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>日本近現代文学作品に書かれている内容を正確に理解し、書かれた時代背景、文化を把握し、なぜその場所、時代、言葉が選ばれているのか一つ一つ丹念に掘り下げて考察することができる。それを論文としてまとめることができる力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>多種多様な文学作品に触れることで、語彙力を増やし、人に正確かつ分かりやすく伝えるための言語の力を応用することができる。(知識)</p> <p>言葉の配置や文体、比喩を駆使して、論理的かつ人を引き付ける文章を書くことができる。(技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・図書館、インターネットで自立的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>教材を熟読し、先行研究論文を読み、そのうえで自分の読みのオリジナリティの上に立ち、自らの解釈を論理的に説明するレポートを 3000 字程度で書いて提出する。添削を受けて完成させる。</p> <p>【学修時間】</p> <p>準備学修項目：教科書にある小説を三度繰り返し読む。 準備学修時間：50 分</p> <p>なお、以下の学習時間が必要となる。教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲学修（教員の添削指導を含む）：15 時間 最終稿の完成：15 時間</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 (1) の初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題 (1) の最終稿を提出。 8 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 (2) の初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題 (2) の最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題 (1) の初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題 (1) の最終稿を提出。 12 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 (2) の初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題 (2) の最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材の精読と理解 30% 自らの論説の妥当性と説得力 30% 学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%
	観察記録	20 %	メール、manaba 等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうかを評価する。
履修者への要望	<p>基本教材に掲載されている作品は、なるべく多く繰り返し読むこと。レポート作成にあたっては、大学図書館や国文学研究資料館のHPやCiNiなどのデータベースを用いて参考文献や先行研究論文を検索して読解すること。場合によっては国立国会図書館をはじめとする公共図書館を活用し資料の入手につとめるなどして、多くの研究論文に目を通すことが望ましい。そのうえで自分が気付いた「発見」を土台にして、着想を発展させて立論し、客観的に論証できるように努める。添削を受け、完成度の高いものを仕上げたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 東郷克美・高橋広満編 教材名： 『〈異界〉文学を読む』（鼎書房、2017年2月）ISBN978-4-907282-29-5 2000円＋税
	〈異界〉をキーワードにして編まれた、15人の作家の短編小説が省略なく全編掲載で載っている。明治20年代から始まる明治期の文学作品、大正期、戦前・戦後の昭和の15編の短編小説を理解しやすいように解説も施され、先行研究リストも記載されている。
参考図書	『日本国語大辞典』（全13巻、小学館、2006年4月）などで、適宜、言葉の意味と用法を調べ、作家案内や関連事項については日本近代文学館編『日本近代文学事典』全六巻（講談社、1978年3月）などの文学事典などを参照にすること。
履修上のポイント	日本近代文学を精緻に読みこなすために作品に多く触れてほしい。教材は優れた短編作品が厳選されているので、何度でも繰り返し読むこと。解説や参考文献リストも参照して理解を深める一助とすること。作品を精読し分析して問題を発見し、それをレポートで表現していくように助言と添削を受けるようにすることが履修上ポイントである。
レポート課題 1	教材に掲載されている泉鏡花、永井荷風、佐藤春夫、芥川龍之介、谷崎潤一郎、梶井基次郎の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について2000字～3000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのかに留意すること。
レポート課題 2	教材に掲載されている夢野久作、江戸川乱歩、太宰治、萩原朔太郎、岡本かの子、井伏鱒二、中島敦、川端康成、井上靖の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのか、また語り方にも留意すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 村上春樹 教材名： 『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫、2004年10月）ISBN4-16-750207-0 448円＋税
	戦中に青年期を過ごし、従軍経験を持ち、戦後数年してから作品を発表し始めた「第三の新人」と文学史上言われている吉行淳之介、小島信夫、安岡章太郎、庄野潤三などの小説をアメリカのプリンストン大学で村上春樹が講義した講義録をもとにした小説案内。
参考図書	安岡章太郎『ガラスの靴 悪い仲間』（講談社文芸文庫、2014年12月） 小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫、2008年1月） 庄野潤三『プールサイド小景・静物』（新潮社、2018年5月） 江藤淳『成熟と喪失 “母”の崩壊』（講談社文芸文庫、1993年10月）
履修上のポイント	日本現代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。教材は戦後（1949年）生まれの村上春樹が「戦後」社会を考えていくうえで、感受性の強い青年期を戦中に過ごし、応召され従軍経験を持つ第三の新人の描いた優れた短編作品に注目して厳選し、その作品の中核を分析している。教材は村上春樹がアメリカの大学院での講義が元になっている。村上春樹がなぜ彼らを選んだのか考察を加えつつ、3人の作家・作品の特徴を捉え、その作品が文学史に残っている意味を十分考察するように留意してほしい。
レポート課題 1	安岡章太郎、小島信夫、庄野潤三の作品群から任意の一つを選び、戦後社会においてこの作品の持つ意味を2000字～3000字で論じなさい。 留意点： この作品の持つ深層を掘り下げて捉えること。
レポート課題 2	教材で取りあげられている『ガラスの靴』『馬』『静物』から一つを選び、戦後社会においてこの作品の持つ意味を「アメリカ」との関係性を軸にして3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作中に出てくる〈アメリカの影〉をしっかりと捉えること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の推敲
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の推敲
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	東アジア文化論特講	担当者	シミズ 清水 トオル 享	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>多民族国家である中国には漢民族と多様な「少数民族」が居住している。文化人類学はフィールドを出発点として、この中国のさまざまな民族の文化や社会を、多角的な視点から分析研究を進めてきた。本特講ではまず、こうした文化人類学による中国の諸民族の研究がいかになされてきたのか考察する。そして、多くの民族が交錯する雲南省を取り上げ、そのさまざまな民族の歴史の変遷と多様な文化や社会の特徴について考察を進め、理解を深めたい。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文化人類学がどのように中国の諸民族を研究考察して来たのか。その全体像と中国における文化人類学研究の特徴について把握する。また中国のなかでも、漢民族と「少数民族」が居住する複雑な地域である雲南の歴史、文化、社会の状況について理解する。 【行動目標 (SBOs)】“知識・解釈” 本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング→図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。 【学修方略 (LS)】 テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート1本につき教材学修に15時間、レポート執筆に15時間、教員の添削指導を含めたレポート添削に15時間をかけることを目安とする。 【学修時間】 レポート1本あたり45時間(教材の学修:20時間、レポート執筆:10時間、レポート推敲と最終稿完成15時間、教員の添削指導を含む)</p>		
スケジュール	<p>前期は基本教材1のレポート課題2編を9月17日(学事暦の提出期限)までに提出のこと。 後期は基本教材2のレポート課題2編を1月12日(学事暦の提出期限)までに提出のこと。 前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の2週間前までに提出のこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。
	観察記録	20%	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。
履修者への要望	<p>履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして修士論文作成に取り組めるようにしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 瀬川昌久、西沢晴彦編訳 教材名： 『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006年） ISBN4-89489-041-0 3,000円＋税
	本教材は中国における文化人類学研究で重要であると考えられている論考をまとめたものである。ラドクリフ＝ブラウン、レイモンド・ファース、費孝通、マリノフスキー、フリードマン、スキナー、林耀華、エブリー、ワトソン、陳其南、ウォード、ハレルといった錚々とした先達の論考が掲載されている。
参考図書	末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995年）ISBN978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在 01 東アジア』（明石書店2005年）
履修上のポイント	序論やあとがきもしっかりと精読し、さらに各論考を通読すること。その上でそれぞれの論考を一編あるいは複数精読し、中国における文化人類学の研究の動向や問題点を把握し、考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題 1	中国における文化人類学研究の動向と課題について(その1) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。
レポート課題 2	中国における文化人類学研究の動向と課題について(その2) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題1とは別にテーマを設定すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 川野明正著 教材名： 『雲南の歴史—アジア十字路に交錯する多民族世界』（白水社、2013年） ISBN:978-4-86398-118-8 1800円＋税
	本教材は漢族と「少数民族」が混在雑居する中国雲南に関する歴史を簡潔にまとめたものである。教材の中では歴史のみならず、「少数民族」の文化や社会についても言及している。
参考図書	石島紀之著『雲南と近代中国—周辺の見点から』（青木書店、2004年）ISBN4-250-20405-7
履修上のポイント	本教材を精読した上で、巻末にあげられている参考文献を参照し、雲南省に居住する「少数民族」の歴史や雲南省の歴史について理解を深めて、考察を進めてほしい。雲南省のさまざまな民族の文化、社会、歴史の多様性、複雑性や外部世界とのつながりを考えた上で、レポートを作成してほしい。
レポート課題 1	雲南省の「少数民族」の歴史について 留意点： 雲南省の「少数民族」の一つを取り上げ、その歴史をレポートすること。もちろん教材以外の多くの参考文献を参照しつつレポートを作成すること。
レポート課題 2	雲南省のさまざまな時代の状況について 留意点： 雲南省の古代から現代までの状況について、一時代をピックアップしてレポートすること。例えば古代の「滇国」、「爨氏の時代」「南詔」、「大理」、元代、明代、清代、近代などをテーマとして取り上げてレポートを作成すること。

基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(序論を読み込む)
第 3 回	教材の学修(Ⅰ～Ⅱを読み込む)
第 4 回	教材の学修(Ⅲ～Ⅳを読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(序論を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(Ⅰ～Ⅱを再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(Ⅲ～Ⅳを再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(「はじめに」を読み込む)
第 3 回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を読み込む)
第 4 回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(「はじめに」を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

科目名	中国語圏文化論特講	担当者	ゴ セン 呉 川	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本特講では、日本との比較対照を視野に入れながら、中国語圏のことばの特徴を考え、中国を中心とする中国語圏のことばと文化の関わりを新語・流行語を含む様々な角度から考察・検証し、中国語圏のことばと文化に対する理解や研究を深めることを目的とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 中国語のことばと文化に対する理解度や研究レベルが高まるようにする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 1) 修士論文作成に必要な先行研究の文献を把握し、それぞれの分野の研究の進め方について理解し、遂行できるようになる。 2) 文化的意味を持つ俗語・慣用語・ことわざ、時代とともに変わる新語・流行語について考察し中国のことばと文化に対する理解を深める。</p>		
学修方略 (方法) 【LS】と 学修時間	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manabafolio を使ったインタラクティブな添削指導を受ける。 ・manabafolio の掲示板機能を利用して、課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 ・manabafolio の全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で情報交換を行う。 ・manabafolio の全受講者用の掲示板機能を利用して、レポートの推敲課程において、受講者が互いのレポートについてアドバイス行う(ピアレスポンスを行う)。 <p>【学修方略 (LS)】 電子データや図書館を利用して、参考文献を調査し、自らレポートを作成したうえ、担当教員と意見交換・質疑応答・添削によってよりレベルの高いものに仕上げていく。</p> <p>【学修時間】 レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲(教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15 時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切：6月末(初稿) 前期締切日(最終稿) ・レポート課題2 締切：8月末(初稿) 前期締切日(最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切：10月末(初稿) 後期締切日(最終稿) ・レポート課題2 締切：12月末(初稿) 後期締切日(最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	課題レポートの内容(論旨、構成、独創性)を重視する。
履修者への要望	可能な限り中国語で書かれた研究書や文献も合わせて読むことが望ましい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 上野恵司 教材名： 『ことばの周辺—中国語 72 話(新版)』（白帝社，2007 年） ISBN：978-4-89-174873-9 1,600 円＋税
	本書はことばと文化のエッセーであるが、ことばの周辺に広がる異文化の世界が見えてくる。
参考図書	上野恵司『ことばの文化背景—中国語 51 話』（白帝社，1997 年） ISBN：978-4-89-174323-9 1,600 円＋税
履修上のポイント	基本教材と参考図書を合わせて熟読し、中国語という言葉を通して、中国の文化・社会との関わりを考察し、中国語圏の文化の特徴を理解・把握してほしい。
レポート課題 1	中国語圏の言葉と文化・社会の関係について分析し、論じなさい。 留意点： 中国語圏の言葉にみる文化的・社会的事象を取り上げ、分析・考察する。
レポート課題 2	日中共通の語彙にみる文化的な相違について考察し、論じなさい。 留意点： 日中同形異義語や同じ漢字を用いながら、意味や用法の異なる言葉に焦点を当て、その文化的背景や発想の違いに注目してほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 郭雅坤，内海達志 教材名： 中国「新語・流行語」小辞典：読んでわかる超大国の人と社会(明石書店，2010 年) ISBN：9784750333137 1,600 円＋税
	経済成長いちじるしい中国を読み解く新語・流行語を取り上げて解説するものである。参考図書と合わせて確認するとよい。
参考図書	宇野和夫・呉川『中日辞典新語・情報篇』（小学館，2008 年） ISBN：978-4-09-515603-3 3,800 円＋税
履修上のポイント	ことばは時代とともに変化するものである。目まぐるしく激動している現代中国においても多くの分野から新語や流行語がどんどん生み出されてくる。常に最新の動向に注目し、できるだけ新しいデータを収集したうえで分析を行ったほうがよい。
レポート課題 1	新語の出現とその文化的・社会的意義について論じなさい。 留意点： 中国語圏の新語や流行語を分野別に整理しながら、新語形成のプロセスについて考察することが望ましい。
レポート課題 2	中国語圏のことばと文化における日本との相違について論じなさい。 留意点： 色彩語のイメージ、動物のイメージ、食文化に関わる表現、身体に関連する表現、タブーの表現、人名・地名の文化的意味、宗教に関わる表現など、さまざまな内容から一つ絞って、副題をつけて論じたほうがよい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 あいさつ語（1～4）入門期の疑問に答える（1～4）」
第 2 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 《現代汉语词典》修訂本を読む、名前のはなし（1～4）」
第 3 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 姓のはなし（1～4）」
第 4 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 敬称をめぐって（1～4）」
第 5 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 外来語のはなし（1～4）」
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成、添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成・提出
第 8 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 日中同形語のはなし（1～4）」
第 9 回	教材の学修：基本教材 1「1 ことばの周辺 食とことば（1～4）」
第 10 回	教材の学修：基本教材 1（参考図書）「ことばの文化背景—ことわざに見る中国文化」
第 11 回	教材の学修：基本教材 1（参考図書）「ことばの文化背景—日中両語の親族語彙」
第 12 回	教材の学修：基本教材 1（参考図書）「ことばの文化背景—法律のことば」
第 13 回	教材の学修：基本教材 1（参考図書）「中国語から見た中国人の思考様式」
第 14 回	レポート課題 2：初稿の作成、添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成・提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2「第 1 章 格差広がる中国社会の光と影」
第 2 回	教材の学修：基本教材 2「第 2 章 さまよえる就職・住宅難民」
第 3 回	教材の学修：基本教材 2「第 3 章 新時代のさまざまな愛のかたち」
第 4 回	教材の学修：基本教材 2「第 4 章 中国社会の闇と病巣」
第 5 回	教材の学修：基本教材 2「第 5 章 IT の進化と頹廃」
第 6 回	教材の学修：基本教材 2「第 6 章 進む環境汚染、高まるエコ意識」
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成、添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成・提出
第 9 回	教材の学修：基本教材 2「第 7 章 新時代、新ビジネスの表と裏」
第 10 回	教材の学修：基本教材 2「第 8 章 過熱する投資ブームの功罪」
第 11 回	教材の学修：基本教材 2「第 9 章 高齢化社会と若者文化あれこれ」
第 12 回	教材の学修：基本教材 2「第 10 章 観光・レジャー大国となった中国」
第 13 回	教材の学修：基本教材 2「第 11 章 新しいライフスタイルと文化」
第 14 回	レポート課題 2：初稿の作成、添削指導に対する修正稿の作成
15 回	レポート課題 2：最終稿の作成・提出

科目名	ヨーロッパ言語圏 文化論特講	担当者	アキクサ 秋草 ジュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>欧米における文学・文化の潮流を理解するために「世界文学」の考え方を学ぶ。また、人文学全般の思考の枠組みを理解するために、現在の欧米圏の学術書の文献の水準を理解できるようになることを目標とする。以上を達成することにより、狭義の文学・文化のみならず、その流通や出版、さらには論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現在、重要な潮流である世界文学について理解し、それがどのようなディシプリンとして構成されているのか知ること。またレポートの文章表現も、内容にふさわしい高いレベルを達成すること。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。理論書・文芸作品を精読し、自分のことばで分析できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。</p> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba 等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>・基本教材 1 のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバック・相互学習による推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。上述したレポートの切日より提出が遅れた場合は、成績が低くなることに留意すること。引用については盗用にならないように重々注意すること（悪質な場合は単位が取得できなくなる）。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： デイヴィッド・ダムロッシュ 教材名： 『世界文学とは何か?』(国書刊行会, 2011) ISBN:978-4-33-605362-6 5,600 円+税
	「世界文学」という概念を、現代のアメリカの文脈で論じたもので、時代・地域・言語もさまざまな表現活動を「生産・流通・翻訳」という三つの観点から分析している。
参考図書	秋草俊一郎編『文学 特集「世界文学」の語り方』(岩波書店, 2016年10月号) ISSN: 0389-4029 2,700 円+税
履修上のポイント	21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が「世界文学」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。
レポート課題 1	『世界文学とは何か?』における文化・文学の「流通」、「翻訳」、「生産」の考え方について説明したうえで、一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ800字以内程度におさめること。 留意点 ：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。
レポート課題 2	課題図書のアプローチを参考にして、具体的な一つ以上の作品について論じなさい。扱う作品は『世界文学とは何か?』で扱われていない文学作品(小説あるいは詩)とする。扱う作品からの引用を二カ所以上、適切な方法で行うこと。 参考文献・注・引用をのぞいた本文5,000字以上とする。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること 留意点 ：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： フランコ・モレッティ 教材名： 『遠読——<世界文学システム>への挑戦』 (みすず書房, 2016) ISBN-13: 978-4874246733 4,600 円+税
	現代において文学を論じるうえで、ひとつの作品を丁寧に時間をかけて読む「精読」ではなく、統計や二次資料などを活用した「遠読」という新しい手法を提唱している。
参考図書	パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』(藤原書店, 2002) ISBN: 978-4894343139 8,800 円+税
履修上のポイント	21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が精読にたいして「遠読」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。
レポート課題 1	『遠読』における「遠読」の考え方について説明したうえで、一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ800字以内程度におさめること。 留意点 ：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。
レポート課題 2	課題図書のアプローチを参考にして、具体的な作品(複数、あるいはその一部)について論じなさい。扱う作品は『遠読』で扱われていない文学作品(小説あるいは詩)とする。扱う作品からの引用を二カ所以上、適切な方法で行うこと。参考文献・注・引用をのぞいた本文5,000字以上とする。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること。 留意点 ：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の序章～1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 2 章～3 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章～5 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 6 章～7 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章～終章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポートで扱う作品の選定と読解
第 11 回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポートで扱う作品の選定と読解
第 11 回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	英語圏文化論特講	担当者	アキクサ 秋草 シュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文芸翻訳実践演習。現代アメリカの作家のごく短い短編を、前期と後期で一編ずつ訳していく。邦訳のない作品を選ぶので、ある程度の覚悟をもって臨んでほしい。文学研究プロパー以外の受講を歓迎するが、扱う作家のほかの邦訳済みの作品を自分で読んでみるなど、文体について研究してみる。あたりまえだが、たんなる英文和訳ではなく、「小説」として読むにたえるレベルのものを目標してほしい。</p> <p>以上を達成することにより、外国語の運用能力、辞書や事典などを活用した調査力、論理的・批判的思考能力をはじめ、高度な文章力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 英文和訳と文芸翻訳の違いを理解する。現代アメリカの小説に親しむ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 作家特有の文体を認識し、日本語に置きかえることができるようになること。適切な辞書・事典など資料を活用できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。学習者の数によってはピアレビューを用いる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。</p> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
スケジュール	<p>前期：6月10日までに教材1のレポート課題(1)初稿を提出。 7月10日までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 8月10日までに教材1のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材1のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10月10日までに教材2のレポート課題(1)初稿を提出。 11月10日までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 12月10日までに教材2のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材2のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、文芸翻訳として通用するか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>レポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し、可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど、積極的な参加を求める。例年、課題2に対していい加減な態度で接する学生が多い。辞書を引いていない、推敲不足と判断した場合、学生の怠慢と見なし、履修中止を求めることもある。受講者の要望によっては追加の課題を課すこともある。その場合、教材については相談にのるが、外国語書籍の入手方法など、今のうちに習熟してほしい。「文芸」翻訳の授業であるので、課題の作品に興味がなく、英語学習だけを目的とした学生にはすすめられない（単位取得できない可能性が高い）。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 著者名：Charles Bukowski 教材名： 教材名：Betting on the Muse: Poems & Stories ISBN: 978-1574230024
	著者チャールズ・ブコウスキー（1920—1994）はカリフォルニアを中心に活動した詩人・作家。酒と女を好み、学校システムからドロップアウトしてその日暮らしの生活をおくった自分の実人生を題材にした作品をおおく書いた。
参考図書	チャールズ・ブコウスキー『くそつたれ! 少年時代』（河出文庫） チャールズ・ブコウスキー『町でいちばんの美女』（新潮社）
履修上のポイント	教材は amazon.co.jp などで購入できる（kindle 版でももちろん可）。ブコウスキーの一見荒っぽいのが、繊細な言葉遣いを、それなりの雰囲気ですすめのために、上記にあげた既訳を大いに参考にしたい。最終稿の二週間前にドラフトを manaba に提出し、受講生同士でピアレビューののち、最終稿を提出すること（ただし、受講者の人数によっては教員がドラフトも添削する）。
レポート課題 1	短編“My Madness”の前半（p. 334 から p. 335 の上から四行目）までを訳しなさい。また、基本教材 1 から別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 留意点： 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。
レポート課題 2	短編“My Madness”の後半（p. 335 の上から五行目から p. 336）までを訳しなさい。また、基本教材 1 からさらに別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 留意点： 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 著者名：Aleksandar Hemon 教材名： 教材名：The Book of My Lives ISBN: 978-1250043542
	著者アレクサンドル・ヘモン（1964—）はサラエヴォ出身の作家。1992 年のシカゴ滞在中にボスニア紛争が勃発し、アメリカに移住し、英語作家として作品を発表するようになる。
参考図書	アレクサンダル・ヘモン『ノーホエア・マン』（白水社） アレクサンダル・ヘモン『愛と障害』（白水社）
履修上のポイント	教材は amazon.co.jp などで購入できる（kindle 版でももちろん可能）。ヘモンは英語の母語話者ではなく、ブコウスキーにくらべて癖はないが、正確に訳すためにはボスニア紛争についての背景知識も必要。最終稿の二週間前にドラフトを manaba に提出し、受講生同士でピアレビューののち、最終稿を提出すること（ただし、受講者の人数によっては教員がドラフトも添削する）。
レポート課題 1	短編“The Book of My Life”の前半（p. 97 から p. 99 の上から七行目）までを訳しなさい。また、基本教材 2 から別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 留意点： 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。
レポート課題 2	短編“The Book of My Life”の後半（p. 99 の上から八行目から p. 101）までを訳しなさい。また、基本教材 2 からさらに別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 留意点： 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	児童文学特講	担当者	イノ 猪野 ケイヤ 恵也	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は、リアン・H・スミスの名著『児童文学論』を精読し、ジャンルや具体的な著作など児童文学について理解する。そして 20 世紀半ばに発表されたファンタジー文学のうち、子どもも読めるということで児童文学といってもよい C.S.Lewis の <i>The Chronicles of Narnia</i> を精読かつ解説する。物語に登場する多様な人物の性格、思想、価値観を考察することにより各人物に対する理解を深めると共に学修者の想像力、洞察力を鍛える。特に想像力を豊かにする。両著書における多様な価値観を理解し、受容し、知識人となるべく自己陶冶に努めることを目的とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、想像力、豊かな知識と倫理観を滋養すると共に、論理的批評的能力、そして問いの設定する力と解決力、想像力、洞察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 リアン・H・スミスの『児童文学論』及び C.S.Lewis の <i>The Chronicles of Narnia</i> を精読し、児童文学の歴史やジャンル、そしてすぐれた児童文学作品の読解により、想像力を滋養する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 すぐれた児童文学とは何であるのかを自分の言葉で説明でき、子どもの成長段階に合わせた作品を選択する力を形成し、子どもに伝えられることができるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラティブな添削指導を受ける。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材及び参考図書を精読し、全力で課題に取り組む。レポート作成は初稿から最終稿まで履修者と担当教員の間でやりとりを行い、着実に進める。</p> <p>【学修時間】 レポート課題 1 つにつき完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 1) 教材の学修: 20 時間 2) レポート執筆: 15 時間 3) レポート推敲と最終稿の完成: 10 時間</p>		
スケジュール	<p>課題レポートは前期、後期の定められた期間内に提出すること。ただし、履修者は課題レポートの草稿の添削を複数回受け、担当者の了解を得た後に最終稿を提出すること。初稿提出の締切は 6 月末日、後期 10 月末日とする。</p> <p>① 課題レポート作成のための準備学修(教材精読、質疑応答、資料収集等も含む)</p> <p>② 課題レポート初稿を作成し、レポートシステムに投稿。</p> <p>③ 教員からの添削ファイル、コメントを受け、第 2 草稿を作成しレポートシステムに投稿。このやりとりが数回続く。</p> <p>④ 担当者による最終稿の認定を受け、課題レポート提出完了。</p> <p>前期 レポート課題 1 締切 6 月末(初稿) 前期締切日(最終稿) レポート課題 2 締切 8 月末(初稿) 前期締切日(最終稿)</p> <p>後期 レポート課題 1 締切 10 月末(初稿) 後期締切日(最終稿) レポート課題 2 締切 12 月末(初稿) 後期締切日(最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100 %	レポート課題の理解、論旨の明確さ、文章の的確さ、註の付け方について総合的に評価する。
	観察記録	%	
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート執筆作業は修士論文作成の練習も兼ねているので、各自の修士論文に関連した先行研究および参考文献のサーチ方法を会得すること。 ・レポート課題を読み間違えないように再確認して草稿を作成すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： リリアン・H・スミス 教材名： 『児童文学論』（岩波現代文庫、2016年） ISBN： 978-4-00-602282-2, 1,340円+ 著者名： C.S. Lewis 教材名： <i>The Chronicles of Narnia</i> HarperCollins Publishers 2001年 ISBN： 978-0066238500 2,663円</p> <p>『児童文学論』は20世紀半ばにシカゴのアメリカ図書館協会から出版された児童文学論である。数々のすぐれた児童文学論の中にあっても、いまだにその輝きを失っていない名著である。本書を精読することで児童文学に関連する基本的、重要事項を把握することができる。</p> <p><i>The Chronicles of Narnia</i>は20世紀おけるすぐれたファンタジーである。本書を精読することでルイスのファンタジー世界が明らかになるだろうし、生きることはどういうことなのかを楽しむながら学ぶことになるであろう。</p>
参考図書	<p>竹野一雄著 『C.S.ルイス歓びの扉 -信仰と想像力の文学世界』（岩波書店、2012年） ISBN:978-4-00-025871-5 2,800円+税 Clad Walsh, <i>The Literary Legacy of C.S.Lewis</i>, Sheldon Press, 1790. ISBN:0-85969-289-2 3,531円</p>
履修上のポイント	<p>『児童文学論』を精読し、児童文学の概念、ジャンル、具体的な作品などをよく理解する。<i>The Chronicles of Narnia</i>の英語を精読し、物語全体の枠組み、アスランの言葉と行為が聖書とどのように関連しているのか考えてみる。また様々な技法(対照、昔話の手法の援用、謎解きの要素、色と音のシンボリズムなど)に留意して読むこと。</p>
レポート課題 1	<p>『児童文学論』第1章から第6章を要約し、私見を述べよ。 (40×40行) 3.3から3.5枚=4,800字から5,600字 留意点：章ごとの要約に過度の長短がないようにし、私見は具体的な内容にする。</p>
レポート課題 2	<p><i>The Chronicles of Narnia</i>の <i>The Magician's Nephew</i>, <i>The Lion, the Witch and the Wardrobe</i>, <i>The House and His Boy</i>を精読し、ナルニア論またはアスラン論をまとめよ。 (40×40行) 3.3から3.5枚=4,800字から5,600字 留意点：アスランと子どもたちの性格描写、物語内容、主題を論じる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： リリアン・H・スミス 教材名： 『児童文学論』（岩波現代文庫、2016年） ISBN： 978-4-00-602282-2, 1,340円+ 著者名： C.S. Lewis 教材名： <i>The Chronicles of Narnia</i> HarperCollins Publishers 2001年 ISBN： 978-0066238500 2,663円</p> <p>『児童文学論』は20世紀半ばにシカゴのアメリカ図書館協会から出版された児童文学論である。数々のすぐれた児童文学論の中にあっても、いまだにその輝きを失っていない名著である。本書を精読することで児童文学に関連する基本的、重要事項を把握することができる。</p> <p><i>The Chronicles of Narnia</i>は20世紀おけるすぐれたファンタジーである。本書を精読することでルイスのファンタジー世界が明らかになるだろうし、生きることはどういうことなのかを楽しむながら学ぶことになるであろう。</p>
参考図書	<p>定松正『英米児童文学の系譜』（こびあん書房、1993年） ISBN:978-4-87-558039 2,816円+税 本多英明編 『英米児童文学の宇宙』（ミネルヴァ書房、2002年） ISBN:978-4-62-303592-2 3,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>『児童文学論』を精読し、児童文学の概念、ジャンル、具体的な作品などをよく理解する。<i>The Chronicles of Narnia</i>の英語を精読し、物語全体の枠組み、アスランの言葉と行為が聖書とどのように関連しているのか考えてみる。また様々な技法(対照、昔話の手法の援用、謎解きの要素、色と音のシンボリズムなど)に留意して読むこと。</p>
レポート課題 1	<p>『児童文学論』第7章から第12章を要約し、私見を述べよ。 (40×40) 3.3から3.5枚=4,800字から5,600字 留意点：章ごとの要約に過度の長短がないようにし、私見は具体的な内容にする。</p>
レポート課題 2	<p><i>The Chronicles of Narnia</i>における <i>Prince Caspian</i>, <i>The Voyage of the Dawn Treader</i>, <i>The Silver Chair</i>, <i>The Last Battle</i>を精読し、ナルニア論またはアスラン論をまとめよ。 (40×40) 3.3から3.5枚=4,800字から5,600字 留意点：アスランと子どもたちの性格描写、物語内容と構造、主題を論じる。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修:基本教材 1『児童文学論』の第 1 章から第 3 章
第 2 回	教材の学修:基本教材 1『児童文学論』の第 4 章から第 6 章
第 3 回	レポート課題 1:初稿の作成
第 4 回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第 5 回	レポート課題 1:最終稿の作成
第 6 回	教材の学修:基本教材 1 <i>The Magician's Nephew</i>
第 7 回	教材の学修:基本教材 1 <i>The Lion, the Witch and the Wardrobe</i>
第 8 回	教材の学修:基本教材 1 <i>The House and His Boy</i>
第 9 回	先行研究の検索と分析
第 10 回	先行研究の検索と分析
第 11 回	先行研究の検索と分析
第 12 回	先行研究の検索と分析
第 13 回	レポート課題 2:初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2:最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修:基本教材 2『児童文学論』の第 7 章から第 9 章
第 2 回	教材の学修:基本教材 2『児童文学論』の第 10 章から第 12 章
第 3 回	レポート課題 1:初稿の作成
第 4 回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第 5 回	レポート課題 1:最終稿の作成
第 6 回	教材の学修:基本教材 2 <i>Prince Captain</i>
第 7 回	教材の学修:基本教材 2 <i>The Voyage of the Dawn Treader</i>
第 8 回	教材の学修:基本教材 2 <i>The Silver Chair</i>
第 9 回	教材の学修:基本教材 2 <i>The Last Battle</i>
第 10 回	先行研究の検索と分析
第 11 回	先行研究の検索と分析
第 12 回	先行研究の検索と分析
第 13 回	レポート課題 2:初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2:最終稿の作成

科目名	言語教育学特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>世界中の外国語教育に影響を及ぼしている CEFR (Common European of Reference for Languages, ヨーロッパ言語共通参照枠) が日本での英語教育や日本語教育などの外国語教育にも影響を及ぼし、様々なテストやカリキュラムに活用されている。その CEFR の理念を正しく理解し、実践例を学ぶ。その上で、教育現場に適応する方法を考察する。</p> <p>また、言語教育学の重要な分野の一つが第二言語習得論である。第二言語習得論を理解した上で、日本語教育を検討・実践できるようになることを目指す。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し、応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> CEFR の理念を説明することができる。 CEFR の適用例を評価し、論述することができる。 言語習得の事例を第二言語習得論に基づいて説明することができる。 外国語教科書の指導項目を第二言語習得論に関係づけることができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio 上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 manaba folio を通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。 (自主研究) 課題に関し、事例研究を実施する。 (レポート作成) レポートを執筆する。 (ディベート) 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。 (ディベート) 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。</p> <p>【学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材と関連文献の学修：20 時間 事例の分析とレポート執筆：15 時間 レポート遂行と最終稿の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：10 時間 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切：6 月末 (初稿) (最終稿提出期限：前期締切日) レポート課題 2 締切：8 月末 (初稿) (最終稿提出期限：前期締切日) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切：11 月 15 日 (初稿) (最終稿提出期限：後期締切日) レポート課題 2 締切：12 月末 (初稿) (最終稿提出期限：後期締切日) 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式 (構成、引用の仕方、適切な表現)、内容 (論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性) * 後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 * その他のレポートは、最終稿にて評価する。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： キース・モロウ 教材名： 『ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) から学ぶ英語教育』(研究社, 2013) ISBN: 978-4-327-41083-4 3,200 円+税
	本書は、キース・モロウ (Keith Morrow) 編纂の <i>Insights from the Common European Framework</i> を日本語に訳したものである。原著に「英語教育」の文言がないように、CEFR の考え方は日本語教育を含む外国語教育全般に影響を持っている。本書は、CEFR の現場への導入の意義、実践上の問題点や課題が扱われている。
参考図書	奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子『日本語教師のための CEFR』(くろしお出版, 2016) ISBN: 978-4874247013 各 2,000 円+税 Council Europe. <i>Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume with New Descriptors</i> . 2018 (https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989) 程遠巍『中華世界における CEFR の受容と文脈化』(ココ出版, 2017) ISBN: 978-4904595893
履修上のポイント	CEFR は、言語教育に大きな影響を与えているので、理念をしっかりと学んでほしい。その上でどのように活用できるか考察すること。また、2018 年に CEFR 補遺版 (Companion Volume) が発表され、上記の URL からダウンロードできるので、必要に応じ参照してほしい。 CEFR に馴染みのない受講者は困難を覚えるかもしれないが、参考図書の『日本語教師のための CEFR』は非常にわかりやすく CEFR を解説しているので参考にしてほしい。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、CEFR や言語教育に関する理解を深めること。
レポート課題 1	第 1 章から第 4 章を読み、CEFR の理念を整理し、日本や日本語に応用する場合どのような利点があるか、どのような点が問題になるか自身の考えを論じる。(3,000 字～4,000 字) 留意点: 日本や日本語に応用することを考える際、日本国内だけではなく、国外の教育場面についても考えること。日本語教育が専門ではない場合は、他言語に置き換えても可。
レポート課題 2	日本語教育における CEFR の活用・適用例に関する記事・論文 1～2 編読み、CEFR の理念に沿うものになっているか、第 5 章の活用例との相違点はどのようなものかを分析し、論じる。(4,000 字～5,000 字) 留意点: CEFR の活用例に関する記事・論文が見つからない場合は CEFR に基づいて構築された「JF 日本語教育スタンダード」の適用例でも構わない。日本語教育が専門ではない場合は、他言語に置き換えても可。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 大関浩美 教材名： 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』(くろしお出版, 2010) ISBN: 978-4-87424-480-7 1,800 円+税
	日本語学習者の習得、誤用を理解するためには第二言語習得論の知識が重要であり、多くの書籍が出版されている。その中で、この書籍は日本語教育に関する事例が多く取り上げられ、非常にわかりやすく解説されている。また、過去の研究例も多く紹介されており、日本語教育を教えるために必要な理論、習得に影響を及ぼす要因などを理解するのに適している。
参考図書	小柳かおる「第二言語習得」『概説 日本語教育 -なぜ、なにを、どう教えるか-』(三修社, 2020) ISBN: 978-4-384-05973-1 2,400 円+税 (予定, 2020 年 3 月出版予定) 小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得概論』(スリーエーネットワーク, 2004) ISBN: 978-4-88319-326-4 1,600 円+税
履修上のポイント	第二言語習得理論を理解し、言語教育の現場に応用する力を身につけてほしい。言語教育を専門としていない受講者は、自身の言語学習に基づき考察すること。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、第二言語習得に関する理解を深めること。
レポート課題 1	第 2 章、第 3 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章を読み、中間言語や言語習得に及ぼす影響を理解した上で、自身の言語習得 (日本語以外の言語で構わない) あるいは学習者の言語習得の事例を取り上げて、影響の観点から分析する。(3,000 字～4,000 字) 留意点: 専門が日本語教育でない場合は、他言語に置き換えても可。
レポート課題 2	第 3 章から第 10 章のいずれかの観点に基づいて行われた研究論文を 2 編以上読んで、それらの論文の内容を要約する。 留意点: 選択した 2 編以上の論文を単に要約するのではなく、共通点、相違点など分析しながらまとめること。専門が日本語教育でない場合は、他言語に置き換えても可。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章, 第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章, 第 4 章
第 3 回	CEFR の日本・日本語への適用に関する検討
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 9 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 10 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 11 回	CEFR 活用例の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 8 章～第 10 章
第 3 回	事例の分析
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章, 第 5 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 6 章, 第 7 章
第 10 回	関連項目の検討・分析
第 11 回	関連項目の検討・分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語学特講	担当者	ホサカ 保坂 ミチオ 道雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、英語と日本語の言語事実を比較・対照しながら、両言語の奥に潜む普遍的原理を、生成文法と機能的統語論の理論に基づき、探求するものである。特に、生成文法と機能的統語論が何を指し、現在の言語研究にいかなる貢献をなしてきたかを、日英語の言語データを通じて実証的に検証し、言語研究の奥深さを学んでいただきたい。あわせて、国語である日本語の構造と英語の構造を比較学習することも目指す。また、国語科の学校文法が依拠する橋本文法等の日本語文法理論を再検討することも目的の1つとする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語研究の基本的な方法論を、日本語と英語の言語現象の比較を通して、実践的に学び、修得することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日英語の語法・文法・意味についての基本的知識を修得する。 ・生成文法による文構造の分析方法を修得する。 ・機能的統語論による談話構造の分析方法を修得する。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。 ・manaba folio の掲示板機能を利用して、課題図書等に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 ・図書館を利用して、参考文献を調査し、レポートを作成する。 <p>【学習方略 (LS)】 まず、第一にテキストを精読し、その内容を十分に吟味し、理解した事柄を、自らの言葉で表現できることが大切である。また、その際、単なる内容のまとめではなく、その理解を深めるために、言語事実をよく観察し、テキスト外の言語事象にも目を配り、理解した内容を応用できる力を身につけてもらいたい。</p> <p>【学修時間】 レポート1本につき準備から完成まで、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：15時間 ・レポート執筆：15時間 ・レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15時間 		
スケジュール	<p>各テキストの内容に従って勉強を進め、レポート課題が済み次第、速やかに提出し、manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受けることとする。なお、各レポート課題の最終提出前に、2回以上の指導を受ける必要がある。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	最終提出レポートの評価
	観察記録	40%	事前提出レポートに関する評価
履修者への要望	<p>できるだけ早めにレポートの草稿を提出できるように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岸本秀樹 教材名： 『ベーシック生成文法』（ひつじ書房，2009年）ISBN:978-4-89-476426-2 1,600円+税
	「人間は生まれた時から言語を獲得するシステムを内在している」という仮説が20世紀半ばに提唱されて以来、言語の研究は本格的な科学へと発展してきた。本教材では、日英語において日常的に観察される言語データを用いて、生成文法がどのような見方で言語をとらえるかが詳しく解説されており、本教材を通して、ことばを科学的に分析する方法について学んで頂きたい。
参考図書	中村捷・金子義明・菊池朗『生成文法の新展開』（研究社，2001年） ISBN:978-4-32-742155-7, 3,000円+税 福井直樹『新・自然科学としての言語学－生成文法とは何か』（筑摩書房，2012年）ISBN:978-4480094964 1,404円 中島平三・池内正幸『明日に架ける生成文法』（開拓社，2005年） ISBN:978-4-75-891809-1 3,000円+税 小野尚之他『生成文法の軌跡と展望』（金星堂，2014年）ISBN: 978-4-7647-4430-3 2,500円+税 原口庄輔・中村捷・金子義明『<増補版>チョムスキー理論辞典』（研究社，2016年）ISBN: 978-4767434797 6,480円
履修上のポイント	前期の目標は、現代言語学の中核理論である生成文法の基本を学び、以下の点を中心に、英語と日本語の統語構造について考察する。 ①文の構造 ②言語獲得 ③Xバー理論 ④意味役割 ⑤主語
レポート課題 1	1. 第1章から第6章を読み、言語獲得と普遍文法の関係について、説明しなさい。 2. 第1章から第6章を読み、日英語の違いについて、Xバー理論に基づいて説明しなさい。
レポート課題 2	1. 第7章を読み、日英語のYES・NO疑問文を派生する方法について、Xバー理論に基づいて説明しなさい。 2. 第8章・第9章を読み、日英語の受動文を派生する方法について、項構造に配慮して説明しなさい。 3. 第12章・第13章を読み、日英語の主語について、項構造に配慮して説明しなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高見健一 教材名： 『機能的統語論』（くろしお出版，1997年）ISBN:978-4-87-424151-6 2,000円+税
	本教材では、基本教材1で学んだ文の構造に焦点を当てて分析する形式主義的なアプローチと比較しながら、文の意味や機能に焦点を当てて分析する機能主義的なアプローチを学んでいく。具体的には、英語と日本語を比較対照しながら、それぞれの言語の構文や現象が適格となったり、不適格となったりする背後にある機能上の制約や原則の働きを考察し、その理由を探る。
参考図書	久野すすむ『談話の文法』（大修館書店，1978年）ISBN:978-4-46-922021-6 2,500円+税 高見健一『機能的構文論による日英語比較』（くろしお出版，1995年） ISBN:978-4-87-424107-3, 4,200円+税 高見健一『日英語の機能的構文分析』（鳳書房，2001年）ISBN:978-4-90-030481-9 4,800円+税 中右実ほか『談話と情報構造』（研究社出版，1998年）ISBN:978-4-32-726002-6 2,400円+税 福地肇『談話の構造』（大修館書店，1985年）ISBN:978-4-469-14220-4 2,300円+税 西光義弘『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版，1999年）ISBN:978-4-87-424169-1 2,500円+税
履修上のポイント	後期の目標は、文の意味や機能に焦点を当てた機能文法の基本を学び、以下の点を中心に、英語と日本語の構文や現象の背後にある適格性について考察する。 ①後置文 ②省略 ③結果構文 ④受身文 ⑤Tough構文 ⑥中間態と可能態 ⑦視点 ⑧再帰代名詞 ⑨数量詞の作用域
レポート課題 1	基本教材2（『機能的統語論』）の第1章から第4章まで、各章ごとに内容をまとめ、練習問題を解答すること。
レポート課題 2	基本教材2（『機能的統語論』）の第5章から第9章まで、各章ごとに内容をまとめ、練習問題を解答すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章・第 2 章の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章・第 4 章の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章・第 6 章の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（1）
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（2）
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 8 章の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 9 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 2 章・第 1 3 章の学修
第 12 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（1）
第 14 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（2）
第 15 回	レポート課題 1：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章・第 2 章の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3 章の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（1）
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（2）
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5 章・第 6 章の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 8 章の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章の学修
第 12 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（1）
第 14 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成（2）
第 15 回	レポート課題 1：最終稿の作成

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	ニシダ ツカサ 西田 司	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1914年に始まったアメリカの学会は、現在ナショナルコミュニケーションアソシエーション(NCA)となり、40以上の分科会を有するに至った。そのうちの1つである異文化間コミュニケーション分科会は、1972年に発足し、現在17の理論が構築され、関連する概念、そして方法論が明示された。コミュニケーションの行われるコンテキストについても研究が進んだ。</p> <p>本講座の目的は、異文化間コミュニケーションの領域を理解するのを主とし、インターパーソナルとノンバーバルの領域を理解するのを副とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を修得するとともに、倫理的及び批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身に着けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>グローバル社会において文化背景の異なる人たちと共生する際に必要となる知識とコミュニケーション能力をつけることである。具体的には、コミュニケーションの基本的な見方とコミュニケーション能力、及びグローバル社会におけるコミュニケーション能力と非言語メッセージについて知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>学修者は、初期コミュニケーション能力 (マインドフル、不安、不確実性、個人の文化的特徴) 及び能力の養成のための教育と訓練の理解、非言語のメッセージの解読・伝達能力 (ジェスチャー、表情、視線、接触、接近性) を養成する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている認知能力やコミュニケーション能力については、学修者自身の数値を算出してください。 ・manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の共同学習を行ってください。 ・図書館、インターネットで文献資料を検索し、レポートを作成してください。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>教材の熟読、OERによる自律的学習、参考文献の検索と批評的リーディング、レポートの作成。</p> <p>【学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、次の目安に45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間、レポートの執筆：15時間、レポートの推敲(教員の添削指導を含む)最終稿の完成：15時間</p>		
スケジュール	前期	レポート課題1	締め切り 6月末(初稿) 前期締切日(最終稿)
		レポート課題2	締め切り 8月末(初稿) 前期締切日(最終稿)
	後期	レポート課題1	締め切り 10月末(初稿) 後期締切日(最終稿)
		レポート課題2	締め切り 12月末(初稿) 後期締切日(最終稿)
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	要約の構成、文章表現の妥当性、考察の独創性、引用の適切性、論旨の明確さ、注の付け方の適切さ
	観察記録	20%	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・要約の課題については、課題の章を熟読し、バランスよくまとめてください。 ・考察の課題については、次の2点が重要になります。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 要約した章で用いられている専門用語を用いて論旨を展開する。 2) テーマに関する知識と経験をもとに考察する。 ・教科書以外の文献から引用することも勧めます。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西田司・小川直人・西田順子 教材名： 『グローバル社会のヒューマンコミュニケーション』（八潮社、2017） ISBN:978-4-86014-830-0 2,000円＋税
	本書は、1つの理論をベースにして、グローバル社会におけるコミュニケーションについて論じる。異なる地域・国で生まれ育った人とのコミュニケーションにおいては、人の考え方や行動の仕方を理解しなければ、相互理解は深まっていかない。それをベースにして、コミュニケーションのスキルが必要であると説く。本書は、3つのテーマについて、10の章によって論じている。 1. 初期のコミュニケーション、2. コミュニケーション行動に現れる個人の文化的特徴、3. コミュニケーション行動の教育。
参考図書	プリブル・チャールズ『科学としての異文化コミュニケーション』（ナカニシヤ出版、2010） ISBN：978-4-7795-0080-0 1,800円＋税
履修上のポイント	教科書及び参考書には、コミュニケーション能力及び個人が文化的特徴を測定する尺度（アンケート）が掲載されています。まず、これらの尺度に記入し、自己の数値を算出し、コミュニケーション能力と文化的特徴を把握することから始め、各章のテーマを理解していきましょう。
レポート課題 1	要約：教科書の第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、第6章の中から3つの章を選び、3,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つのテーマ（あるいは章）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ：考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：教科書の第7章、第8章、第9章、第10章の中から2つの章を選び、3,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つのテーマ（あるいは章）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ：考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： リッチモンド, V.P. & マクロスキー, J.C. 教材名： 『非言語行動の心理学』（北大路書房、2001年） ISBN:978-4-76-282220-9 3,200円＋税
	本書は、メッセージを構成する、非言語のサイン全体をテーマとしていて、コミュニケーション全体を理解するには、最適の専門書である。概念の解説に続き、ジェスチャー、感情表現、対人距離、接触、接近性といったテーマを含め、後半の章では、前半の基礎概念を用い、実践的なコミュニケーションの場や状況での非言語のメッセージについて解説している。
参考図書	大坊邦夫『しぐさのコミュニケーション』（サイエンス社、2006年） ISBN: 978-4-78-190888-5 1,500円＋税
履修上のポイント	本書は、アメリカのおおよそ50年間の非言語コミュニケーション研究の集大成というべき図書である。1970年代以降の研究結果がまとめられており、ハンドブックあるいはエンサイクロペディアの内容的な構成になっている。 本書の各章には、用語集がつけられているので、基礎概念を理解するために、あるいは要約をするために使ってもらいたい。
レポート課題 1	要約：第2章、第3章、第4章、第5章、第7章、第8章、第9章の中から3つの章を選択し、3,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つのテーマ（あるいは章）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ：考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：第10章、第11章、第12章、第13章の中から2つの章を選択し、2,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つのテーマ（あるいは章）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ：考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章、第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章、第 4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章、第 6 章
第 4 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章、第 8 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 9 章、第 10 章
第 11 回	図書館での検索資料の学修
第 12 回	図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 2 章、第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章、第 5 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章、第 8 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 10 章、第 11 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 12 章、第 13 章
第 12 回	図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	社会言語学特講	担当者	インベ 石部 ナオト 尚登	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>社会言語学は、実際の社会の中で使用されている言語のあり方を考察の対象とする。言語は単にコミュニケーションのための道具であるだけでなく、様々な問題を引き起こし、問題を持続させ、また問題を解決するものでもある。本講義では、社会言語学の基礎的知識を修得するとともに、言語に関連する様々な現実の問題を知ること、言語はそれが話される社会と密接に結び付いていることを理解する。常に言語を通して社会を深く理解しようとする社会言語学的な姿勢を身に付けことを目的とする。</p>																										
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 社会言語学の基礎を修得し、言語の多様性を理解することを通して、豊かで柔軟な言語観を涵養する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語と社会、政治、文化の密接な関わり合いを理解できる。 ・社会の抱える諸問題を言語の観点から考えることができる。 ・自ら発見した問題に対し、実際に調査を行うことができる。 																										
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 図書館やインターネット等を使用して資料調査を行い、レポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 基本教材および参考図書を熟読する。(自習) レポート作成のための文献検索および簡易調査を行う。(自主研究) 構想段階から担当者との対話を継続し、初稿を経てレポートを完成させる。(レポート作成・ディベート)</p> <p>【学修時間】 レポート課題ひとつにつき、完成までに以下を目安に、最低 45 時間の学修時間が必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本教材および参考図書の学修：10 時間 2) レポート作成のための文献調査および簡易調査の実施：10 時間 3) レポート執筆：10 時間 4) レポート推敲 (教員の添削指導を含む) と最終稿の完成：15 時間 																										
スケジュール	<p>テーマ選定の時点から担当者との対話をはじめめる。</p> <table border="1"> <tr> <td>前期</td> <td>レポート課題 1</td> <td>初稿締切</td> <td>6 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>前期締切日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>レポート課題 2</td> <td>初稿締切</td> <td>8 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>前期締切日</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>レポート課題 1</td> <td>初稿締切</td> <td>10 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>後期締切日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>レポート課題 2</td> <td>初稿締切</td> <td>12 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>後期締切日</td> </tr> </table>			前期	レポート課題 1	初稿締切	6 月 15 日	最終稿締切	前期締切日		レポート課題 2	初稿締切	8 月 15 日	最終稿締切	前期締切日	後期	レポート課題 1	初稿締切	10 月 15 日	最終稿締切	後期締切日		レポート課題 2	初稿締切	12 月 15 日	最終稿締切	後期締切日
前期	レポート課題 1	初稿締切	6 月 15 日	最終稿締切	前期締切日																						
	レポート課題 2	初稿締切	8 月 15 日	最終稿締切	前期締切日																						
後期	レポート課題 1	初稿締切	10 月 15 日	最終稿締切	後期締切日																						
	レポート課題 2	初稿締切	12 月 15 日	最終稿締切	後期締切日																						
成績評価	種別	割合	評価基準																								
	レポート	80%	<p>構想 (問題発見、テーマ設定)、形式 (構成、引用の仕方、文章表現)、内容 (論旨の明快さ、独創性)、課題把握の適切性で、総合的に評価する。 なお、いずれのレポートも、最終稿で評価を行う。</p>																								
	観察記録	20%	<p>提出期限の順守、レポート添削への対応、初稿から最終稿への改善の度合い (加筆、修正) で評価する。</p>																								
履修者への要望	<p>レポートの作成にあたっては、構想の段階から担当者との対話を開始し、積極的な問い合わせやフィードバックへの対応を継続して行う。また、自身の経験を十分に活用するとともに、より多くの関連資料 (文献やデータ) を参照する。 なお、レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。剽窃や無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</p>																										

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 義永美央子・山下仁編 教材名： 『ことばの「やさしさ」とは何か 批判的社会言語学からのアプローチ』（三元社，2015年）ISBN：978-4-88303-383-6 2,800円＋税</p> <p>本書に収められた各論考は、日本語教育、介護、医療、ろう教育、言語景観、震災、原発など、それぞれの場におけることばの問題を、ごくありふれた感覚である「やさしさ」——それは「優しさ」でもあり「易しさ」でもある——の観点から明らかにしている。ことばを無色透明な「道具」として捉えるのではなく、日常の場におけるコミュニケーション、ひいては社会を変える可能性を秘めたものとして見る（批判的）社会言語学の入門書である。</p>
参考図書	<p>『社会言語学』（「社会言語学」刊行会）ISSN：13464078 『ことばと社会 多言語社会研究』（「ことばと社会」編集委員会，三元社） 『社会言語科学』（社会言語科学会）ISSN：13443909</p>
履修上のポイント	<p>言語に起因する社会的問題を考えるにあたり、名前の付いたある「ひとつの言語」の存在を前提とするのではなく、社会の中で人々が様々なことばを話しているという事実から考察をはじめめる姿勢を身につけてほしい。多様なことばの中からある「言語」が切りだされ可視化される仕組みに目を向けることは、社会言語学の重要な特徴のひとつです。</p>
レポート課題 1	<p>本書の1章～8章の中から2つの論考を選択し、なぜそれらの論考を選択したのかの理由を含めて、それぞれ2,000字程度で要約する。 留意点：要約に際して、可能な限り自身の経験を取り入れるよう心掛けること。</p>
レポート課題 2	<p>参考図書に挙げた3つの社会言語学の邦文専門雑誌に収められた論文の中から、自らが興味をもったものを1本選択し、その論文のレビューを行う（2,000～3,000字）。『社会言語学』は https://syakaigengo.wixsite.com/home で、『ことばと社会』は http://www.sangensha.co.jp/allbooks/kotobato.htm#474 で、既刊号の目次を参照することができる。 留意点：単なる論文「紹介」とどまらず、批判的な視点からの「レビュー（批評）」を心掛けること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 多言語化現象研究会編 教材名： 『多言語社会日本 その現状と課題』（三元社，2013） ISBN：978-4883033492 2,500円＋税</p> <p>本書は、日本社会における「多言語化」の現象を軸に、日本を多言語社会として理解する多様な視点を提示してくれる論文集である。そのなかで、「少数言語」「言語政策」「言語サービス」「言語教育」「言語産業」「言語接触」「言語福祉」「言語差別」など、社会言語学の重要概念が具体的な事例とともに丁寧に解説されている。また、14章と15章には、各言語コミュニティや関連するトピックについて、実際に活動を行っている実践家の手による解説が収められている。</p>
参考図書	<p>真田信治・庄司博史編『事典 日本の多言語社会』（岩波書店，2005） ISBN：978-4000803052 3,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>言語の多様性には、複数の言語が共存する言語「外」的な多様性と、方言などの言語「内」的な多様性の二つの側面があることを常に意識して学修を進めることで、そうした言語多様性に起因する問題が実際には身の回りに多く存在していることを能動的に発見してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>本書の1章～13章の中からテーマをひとつ選択し、それぞれの著者が http://www.sangensha.co.jp/500dpi/349_tebiki_2.pdf で提示している課題のひとつについて、レポートを作成する（2,000字程度）。 留意点：感覚的、個人的な見解ではなく、関連する複数の論文を参照した上で論理立てて論じ、その時点での結論を提示すること。</p>
レポート課題 2	<p>自身の身の回りの社会言語学の問題を見だし、それについて実際に簡易的な調査を行い、その成果を報告する（4,000～5,000字）。なお、教材および参考図書は日本の言語状況を扱ったものであるが、レポート課題の調査地は日本以外の国や地域に設定してもかまわない。 留意点：調査の成否、得られた結果の新規性よりも、問題発見と課題設定を重視して取り組むこと。調査計画や調査方法については、担当者との十分な相談の上決定すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～3 章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章～6 章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章～8 章の精読
第 4 回	レポート課題 1：レポートの構想
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	課題論文の検索
第 9 回	課題論文の精読
第 10 回	課題論文の批判的検討
第 11 回	関連資料（文献，論文）の検索，参照
第 12 回	レポート課題 2：レポートの構想
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～3 章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 4 章～6 章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～9 章の精読
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 10 章～13 章の精読
第 5 回	レポート課題 1：レポートの構想，関連文献の検索
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の 14 章～15 章の精読
第 10 回	レポート課題 2：レポートの構想
第 11 回	簡易調査の計画
第 12 回	簡易調査の実施
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Patsy M. Lightbown and Nina Spada (著) 教材名： <i>How Languages are Learned</i> . 4th ed. Oxford University Press, (2013) ISBN:978-0-19-454126-8 £24.50 3,900円+税
	第二言語習得論を基礎から学び, 自分の興味ある研究分野の方向性を探る上で参考になる入門書といえる。第一言語習得からはじめ, 第二言語習得の特徴, 理論, 調査結果など多くの例が提示されていて, 全体を概観でき, 意欲的な履修者にも読み応えのある内容である。
参考図書	①白井恭弘 (著) 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 (岩波書店, 2008年) ISBN:978-4-00-431150-8 720円+税 ②浦野研 (他) (著) 『はじめての英語教育研究—押さえておきたいコツとポイント』 (研究社, 2016年) ISBN:978-4-327-42197-7 2,400円+税
履修上のポイント	基本教材や参考図書を中心に, また掲載されている引用文献なども参考にしながら, 焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り, 必要な場合には内容や進度について相談すること。
レポート課題 1	教材 <i>How Languages are Learned</i> の Chapter 1 と 2 を読み, 外国語を教える教師にとって第二言語習得論を知ることの重要性を日本語 3,000 字程度で述べること。 留意点 : 教材の引用, 自分の考察, 今後の研究にどう役立てられるかも加えること。
レポート課題 2	教材の Chapter 3 を読み, 学習の個人差について興味のある事柄を選択し, また学術雑誌から査読付き研究論文を 3 本以上 (英文の論文 1 本以上) 選び熟読し, その内容を簡潔にまとめること。 留意点 : 先行研究をまとめたもの, 自分の考察, 今後の研究にどう役立てられるかも含めて 3,000 字程度で述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Patsy M. Lightbown and Nina Spada (著) 教材名： <i>How Languages are Learned</i> . 4th ed. Oxford University Press, (2013) ISBN:978-0-19-454126-8 £24.50 3,900円+税
	第二言語習得論を基礎から学び, 自分の興味ある研究分野の方向性を探る上で参考になる入門書といえる。第一言語習得からはじめ, 第二言語習得の特徴, 理論, 調査結果など多くの例が提示されていて, 全体を概観でき, 意欲的な履修者にも読み応えのある内容である。
参考図書	①セリガー, ハーバート&ショハミー, イラーナ (著) 『外国語教育リサーチマニュアル』 (大修館書店, 2001年) ISBN:978-4-46-924457-1 2,800円+税 ②馬場今日子&新多了 (編) 『はじめての第二言語習得論講義—英語学習への複眼的アプローチ』 (大修館書店, 2016年) ISBN:978-4-469-24608-7 1,900円+税
履修上のポイント	基本教材や参考図書を中心に, また掲載されている引用文献などを参考にしながら, 焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り, 必要な場合には内容や進度について相談すること。
レポート課題 1	教材 <i>How Languages are Learned</i> の Chapter 4 と 5 を読み, 第二言語学習を説明する理論と, 学習者の学習を観察することについて 3000 字程度で述べること。 留意点 : 教材の引用, 自分の考察, 今後の研究にどう役立てられるかも加えること。
レポート課題 2	教材の Chapter 6 と 7 を読み, 教授法の提案と通説について興味のある事柄を選択し, 学術雑誌から研究論文を 3 本以上選び (英文の論文 1 本以上), その内容を簡潔にまとめること。 留意点 : 研究計画書 (想定も可) を含め, 学術論文の体裁を意識し 3,000 字程度で作成すること。

基本教材 1

第 1 回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較
第 2 回	教材 1 第 1 章
第 3 回	教材 1 第 2 章
第 4 回	第 1 & 2 章から課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 5 回	レポート課題 1 初校の作成
第 6 回	レポート課題 1 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 8 回	教材 1 第 3 章
第 9 回	教材 1 第 3 章 オンラインピアディスカッション
第 10 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 11 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び査読付き学術論文の検索と要約
第 12 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び査読付き英語学術論文の検索と要約
第 13 回	レポート課題 2 初校の作成
第 14 回	レポート課題 2 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 ピアフィードバックによる完成稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材 2 第 4 章
第 2 回	教材 2 第 5 章
第 3 回	教材 2 第 4 & 5 章から課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 4 回	レポート課題 1 初校の作成
第 5 回	レポート課題 1 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 7 回	教材 2 第 6 章
第 8 回	教材 2 第 7 章
第 9 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 10 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び査読付き学術論文の検索と要約
第 11 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び査読付き英語学術論文の検索と要約
第 12 回	レポート課題 2 初校の作成
第 13 回	レポート課題 2 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 15 回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較の再考

科目名	言語教育工学特講	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では、印刷教材だけでなく、e-Learning 教材やWeb コンテンツ、ICT (Information and Communication Technology) の各種技術など、多様な教育メディアが利用されている。また、ICTにより教室を超えた対話や学習者の自律学習が可能になり、対面授業と e-Learning を組み合わせるブレンデッドラーニングも散見されるようになった。本講義では、言語教育における ICT の効果的な教育利用のために、インストラクショナルデザイン (Instructional Design:ID) を学ぶ。さらに、オープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) を使った e-Learning を実体験し、言語教育においてより効果的に e-Learning および ICT を活用できる能力を身に付ける。以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 ICT を利用した言語教育やその研究に必要な専門性 (知識・技能・態度) を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ e-Learning の基盤となる学習理論と ID のモデルを説明できる。 ・ それを基に、言語教育の実践例を分析・評価できる。 ・ OER を使った学習を体験し、自らの学びについて、ならびに、OER を使った学習の利点と問題点について論述できる。 ・ 自分の教育現場に配慮して、e-Learning や ICT 利用した授業デザインを立案できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う。(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等) ・ OER を視聴し、レポートを作成する。 ・ 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>(自習) 教材の熟読、OER による自律的学習 (自主研究) 参考文献の検索と熟読 (レポート作成) リポートの作成・リポート推敲 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動)</p> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題 1 つにつき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>1) 教材の学修：20 時間 2) リポート執筆：10 時間 3) リポート推敲と最終の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)：15 時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題 1 締切：6 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切：8 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題 1 締切：10 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切：12 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題 1, 2 と後期レポート課題 1 は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。 ・各レポート提出時に、レポート執筆チェックリストをあわせて提出すること。チェックリストは、学期開始後、manaba 上に掲載する 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 鄭仁星・久保田賢一・鈴木克明 教材名： 『最適モデルによるインストラクショナル・デザイン－ブレンド型 e ラーニングの効果的な手法』（東京電機大学出版局，2008年）ISBN-10：4501543906 1,900円+税
	本書は、インストラクショナル・デザイン（Instructional Design: ID）とは何か、IDにはどのようなモデルがあるか、ブレンド型 e-Learning の環境をどう設計するかについて解説している。対面授業と e-Learning を組み合わせたブレンド型 e-Learning を設計する際の背景となる学習理論から設計の手順まで学ぶことができる。
参考図書	日本教育工学会監修 坂本昂・岡本敏雄・永野和男編著 『教育工学とはどんな学問か』（ミネルヴァ書店，2012年）ISBN:978-4623063611 2,600円+税 R. A. リーサー，J. V. デンプシー編 鈴木克明・合田美子監訳『インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題』（北大路書房，2013）ISBN-10:4762828181 4,800円+税
履修上のポイント	教育工学は、コンピュータや ICT などを使った「テクノロジーによる教育」だけでなく、教育過程そのものをテクノロジーとして捉え直す「テクノロジーとしての教育」を研究する役割を担っている。e-Learning による教育や ICT を利用する教育では、それらを学習環境として授業に効果的に位置付けることが重要である。ID を学び、ID を枠組みに、国語や英語、日本語等の言語の授業における効果的な活用について検討すること。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。
レポート課題 1	1 章～6 章や参考図書を読んで、ID の定義と背景となる学習観・学習理論についてまとめ、教材で紹介されている OPTIMAL モデルの概要を解説する。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：学習理論による ID モデルの違い、OPTIMAL モデルの特徴を分かりやすく解説すること。
レポート課題 2	言語教育や異文化間教育分野の e-Learning や ICT 利用の実践例（論文・報告書）を検索し、事例を 2 つ取り上げて、基本教材の 7 章，8 章を参考に OPTIMAL モデルを枠組みに分析を行い、その結果について論じる。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：マイクロデザインとマイクロデザインに分けて整理すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 栗田佳代子，日本教育研究イノベーションセンター 編著 教材名： 『インタラクティブ・ティーチング－アクティブ・ラーニングを促す授業づくり』（河合出版，2017年）ISBN:978-4-7772-1794-6 2,500円+税 講義動画： http://www.utokyofd.com/mooc/contents （8 週間プログラム） （東京大学ファカルティ・ディベロップメント HP 内）
	講義動画は JMOOC 講座として配信されたもので、現在、OER として東京大学の HP で広く公開されている。印刷教材は、その講義動画を学ぶための教材である。大学教員準備プログラムから生まれた講座であるが、アクティブ・ラーニングの手法やループリックによる評価など、インタラクティブ・ティーチングの理論や方法論が体系的に学べ、分野を問わず教師の能力開発に役に立つ。
参考図書	吉田晴世・野澤和典 編著『最新 ICT を活用した私の外国語授業』（丸善プラネット，2014年）ISBN: 978-4863451971 2,700円+税
履修上のポイント	印刷教材の課題に取り組みながら、8 週間のプログラムをそれぞれ自律的に進める。学習過程での疑問や意見は manaba folio の掲示板に掲載し、受講者同士でやり取りをする。OER を使った自律的な学びの実体験について、学んだ内容や学習方法をクリティカルに検討する。参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業デザインを考案する。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。
レポート課題 1	8 週間の講義動画による自律的学習を通して、講義内容から何を学んだかをまとめ、その上で、このようなオープンエデュケーション教材を使った学びの方法の利点と問題点について、自分の体験を踏まえて論じる。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：講義動画による学びは、特に参考になった章や項目に焦点を絞って論じること。
レポート課題 2	自分の教育現場を対象に、e-Learning, ICT を利用したインタラクティブな授業なデザインを立案してシラバスを作成し、その特徴や期待される効果について論じる。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：目的や目標の記述や評価の方法などシラバスの記述方法は、基本教材 2 の第 5 章に則ること。1 コマの指導案ではなく、ひとつのコースを計画すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～4 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～7 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章～10 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章～8 章
第 9 回	課題論文の検索と分析
第 10 回	課題論文の検索と分析
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章の学修と講義動画の視聴
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章の学修と講義動画の視聴
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章の学修と講義動画の視聴
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章の学修と講義動画の視聴
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章の学修と講義動画の視聴
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	授業デザインとシラバスの検討
第 11 回	授業デザインとシラバスの検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	トヨタ テツヤ 豊田 哲也	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>言語教育に関する研究を遂行するためには、研究方法の策定と、収集したデータに対する適切な分析手法が必要不可欠である。本講座は、言語教育研究で用いられる研究法と統計分析手法について研究事例を参考に学習し、各研究法に応じた分析能力を習得することで、自身の研究計画立案能力の向上を目的とする。これにより、当該分野についての知識や倫理観を養い、論理的かつ批判的な思考力のほか、当該分野の問題点の発見とその解決を通じた挑戦力や省察力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育研究における各種研究法・統計分析手法の特徴を理解し、言語教育研究を実践するためのアプローチを正しく理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種研究法・統計分析手法について理解し、説明することができる。 研究計画を立案することができる。 研究内容に応じた統計分析手法を選択し、結果の解釈ができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 上での教員とのディスカッション</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材を熟読し、レポートを執筆する。 レポートの作成と推敲において自己添削を繰り返してレポートを完成させる。 教員からの添削を踏まえてレポートを修正する。 <p>【学修時間】 各レポート課題の作成について必要となる時間の目安は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の修得：10 時間 レポートの執筆：15 時間 レポートの推敲：20 時間 (教員とのディスカッション含む) 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> 6 月末：レポート課題 1 初稿提出 8 月末：レポート課題 2 初稿提出 前期課題提出締切日：レポート課題 1, 2 最終稿提出 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> 10 月末：レポート課題 1 初稿提出 12 月末：レポート課題 2 初稿提出 後期課題提出締切日：レポート課題 1, 2 最終稿提出 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	構成、表現方法、課題の認識、論旨の明確さ等に加えて、以下の基準で評価する。 ・教材内容の理解度 (レポート初稿を基に評価) ・レポートの完成度 (レポート最終稿を基に評価)
	観察記録	20%	レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポート提出前に、自己添削によるレポートの完成度向上に努めること。 レポート提出の締切は厳守すること。 レポート作成にあたって引用した情報は必ず明記すること。 レポートは研究倫理を遵守して作成し、無断引用等の研究倫理違反には十分留意すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 西村純一，井上俊哉 教材名： 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版，2016）ISBN 978-4-7795-0998-8，2,800 円+税</p> <p>本書は心理学の初学者向けに，基礎的な研究法と収集データを分析するための統計法についてやさしく書かれている．研究計画の立案と研究目的に応じた分析手法を理解することが可能である．</p>
参考図書	<p>三浦省五，前田啓朗，山森光陽，磯田貴道，廣森友人『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書籍，2004）ISBN 978-4-469-24493-9，1,600 円+税 鈴木真人『分散分析と実験計画法』（日本工業新聞社，2018）ISBN 978-4-526-07829-3，2,400 円+税</p>
履修上のポイント	<p>言語教育研究を進める上で必要な研究法について学び，それぞれの研究法をどのように言語教育研究で役立てられるかを考えながら学習を進めること．その際に，各研究法について詳細に理解できなくても構わないが，研究目的を明らかにするためにどのような研究法を用いるべきなのかを考えながら学習してほしい．</p>
レポート課題 1	<p>第 I 部「研究法」を読み，3 章～7 章の各研究法について要点をまとめる（5,000 字程度）． 留意点：教材の内容を自分の言葉で説明すること．それぞれの研究法の比較等を行う場合は，各研究法の要点説明後に記述する．図表等を適宜使ってわかりやすい記述を心がけること．</p>
レポート課題 2	<p>「実験法」「観察法」「面接法」「質問紙法」「事例研究法」のいずれかを用いた言語教育研究の論文を 2 本探し，それぞれの研究デザイン（目的，方法，データの種類，分析方法，結果）についてまとめる（5,000 字以内）． 留意点：論文は各研究法が異なるものを選ぶこと．論文の内容についての記述は要点のみとし，研究デザインについての考察を充実させること．</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 西村純一，井上俊哉 教材名： 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版，2016）ISBN 978-4-7795-0998-8，2,800 円+税</p> <p>本書は心理学の初学者向けに，基礎的な研究法と収集データを分析するための統計法についてやさしく書かれている．研究計画の立案と研究目的に応じた分析手法を理解することが可能である．</p>
参考図書	<p>島田めぐみ，野口裕之『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房，2017）ISBN 978-4-89476-862-8，1,600 円+税 奥村太一『教育実践データの統計分析 -学校評価とよりよい実践のために-』（共立出版，2012）ISBN 978-4-320-11028-1，2,500 円+税</p>
履修上のポイント	<p>研究計画を立案するためのポイントを押さえながら学習を進めてほしい．基本教材は言語教育を対象としていないが，言語教育研究を進めていくために参考になる教材である．参考図書と併せて精読されることを勧める．各統計手法がどのような研究の分析に用いられているかを対応付けながら課題に取り組んでほしい．</p>
レポート課題 1	<p>第 II 部「統計法」を読み，それらの統計手法を使った言語教育に関する研究論文を 2 本探し，研究目的と照らし合わせながら，データ分析の方法と結果の解釈について妥当性や問題点を論じる（5,000 字以内）． 留意点：論文は統計手法が異なるものを選ぶこと．論文の内容についての記述は要点のみとし，分析方法と結果の解釈についての考察を充実させること．</p>
レポート課題 2	<p>統計手法を使った研究計画を立案する（5,000 字以内）． 留意点：立案した研究計画で何を明らかにしたいのかについて詳しく論じ，その上で研究目的に適した統計手法を選択すること．</p>

基本教材 1

第 1 回	基本教材 I の精読 (3, 4 章)
第 2 回	基本教材 I の精読 (5~7 章)
第 3 回	レポート課題 1 の初稿執筆
第 4 回	レポート課題 1 の初稿執筆および自己添削
第 5 回	レポート課題 1 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 6 回	レポート課題 1 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 7 回	レポート課題 1 の最終稿執筆および提出
第 8 回	研究論文の収集と調査
第 9 回	研究論文の収集と調査
第 10 回	レポート課題 2 における研究論文の決定
第 11 回	レポート課題 2 の初稿執筆
第 12 回	レポート課題 2 の初稿執筆および自己添削
第 13 回	レポート課題 2 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿執筆および提出

基本教材 2

第 1 回	基本教材 II の精読 (8~11 章)
第 2 回	基本教材 II の精読 (12~15 章)
第 3 回	各統計手法を用いた研究論文の収集および調査
第 4 回	各統計手法を用いた研究論文の収集および調査
第 5 回	レポート課題 1 の初稿執筆
第 6 回	レポート課題 1 の初稿執筆および自己添削
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿執筆および提出
第 9 回	レポート課題 2 における研究計画の立案
第 10 回	レポート課題 2 における研究計画の立案
第 11 回	レポート課題 2 における研究計画の立案, 利用する統計手法の確認
第 12 回	レポート課題 2 の初稿執筆
第 13 回	レポート課題 2 の初稿執筆および自己添削
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿執筆および提出

科目名	日本語学特講	担当者	オノ マサキ 小野 正樹	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では、語用論の知見を活かした研究と密接な関係がなされている。語用論のアプローチが言語教育にも有効なためである。本講義では、言語教育における語用論理論の効果的な教育利用のために、西洋の基本的アプローチを学び、日本語の文法現象の分析アプローチを学ぶ。さらに、日本語教育における活用方法を探り、日本語の分析方法を学ぶ。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 語用論理論を利用した言語教育やその研究に必要な専門性 (知識・技能・態度) を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボライトネスなど、語用論の基盤となる学習理論を説明できる。 ・それを基に、言語教育の実践例を分析・評価できる。 ・実例を収集し、現代日本語の特徴について、論述できる。 ・自分の教育現場に配慮して、語用論に基づいた授業デザインを立案できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等) ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>(自習) 教材の熟読による自律的学 (自主研究) 参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲 (ディベート) 掲示板でのディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動)</p> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題 1 つにつき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>1) 教材の学修: 20 時間 2) レポート執筆: 10 時間 3) レポート推敲と最終の完成 (教員の添削指導, ピア・レスポンスを含む): 15 時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題 1 締切: 6 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切: 8 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p><後期> ・レポート課題 1 締切: 10 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切: 12 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題 1, 2 と後期レポート課題 1 は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 ・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献, 注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 山岡政紀・牧原功・小野正樹 教材名： 『新版 日本語語用論入門：コミュニケーション理論から見た日本語』 明治書院 ISBN-10 4625704103 1,600 円+税
	本書は、日本語のオリジナルな用例を掲げた、理想の語用論入門テキスト。タスク・練習問題・ヒントで理解を深め、発話の目的を明らかにする内容となっている。
参考図書	山岡政紀 編『日本語配慮表現の原理と諸相』（くろしお出版，2019年） ISBN：4874248152 4,200 円+税
履修上のポイント	語用論は、談話分析、発話機能、配慮表現、待遇表現、ポライトネスなど日本語教育に効果的に位置付けることが重要である。語用論を学び、語用論の枠組みで、日本語の授業における効果的な活用について検討すること。
レポート課題 1	1章～7章や参考図書を読んで、語用論の背景となる基本的理論についてまとめ、語用論利用の実践例（論文・報告書）を検索し、事例を取り上げて、基本的理論を枠組みにした分析を行い、その結果について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点： 各理論の特徴を分かりやすく解説すること。
レポート課題 2	レポート 1 を深め、日本語教育への応用を考察する。（3,000字～4,000字） 留意点： 一つ以上の理論を用いて整理すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 小野正樹・李奇楠 編著 教材名： 『言語の主観性—認知とポライトネスの接点』（くろしお出版，2016年）ISBN-10: 4874246990 3,400 円+税
	『言語の主観性—認知とポライトネスの接点—』という本書名には、語用論研究の大きな流れ、「主観性」「認知」「ポライトネス」といった3つのキーワードを含めている。言語化において主観とは認知そのものでもあり、対話において主観的な表現にコミュニケーションの摩擦が起きることもある。認知の記述にあたっては、個人レベルだけではなく、ある言語集団の中で共通した仕組みがある。それを伝える場合にもある慣習的な用法が存在し、それが言語集団の中で求められるポライトネスで、主観性とは何かといった理論的な内容、特定言語の発想とその理解を記述するための対照研究、そして、外国語として日本語を学ぶ、あるいは使用する場合の問題点からなっている。
参考図書	山岡政紀 編『日本語配慮表現の原理と諸相』（くろしお出版，2019年） ISBN：4874248152 4,200 円+税
履修上のポイント	メタファー、ヴォイス、授受表現、補助動詞、呼称、モダリティ、引用などの言語現象を学び、日本語教育に効果的に位置付けることが重要である。上記論文を学び、語用論の枠組みで、日本語の授業における効果的な活用について検討すること。
レポート課題 1	1章～11章や参考図書を読んで、一つの論文を取り上げ関連研究についてまとめ、日本語分析を行い、その結果について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点： 各言語現象の特徴を分かりやすく解説すること。
レポート課題 2	レポート 1 を深め、日本語教育への応用を考察する。（3,000字～4,000字） 留意点： I-JAS（国立国語研究所）などの日本語学習者コーパスを利用して、母語による日本語学習者の特徴を論じること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 3 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章
第 5 回	復習 ピア・レスポンス
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成（2 章から 4 章までの中から一つ選択）
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の 6 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成（5 章から 7 章までの中から一つ選択）
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 3 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成（1 章から 5 章までの中から一つ選択）
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成・ピア・レスポンス
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の 6 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の 9 章
第 12 回	教材の学修：基本教材 1 の 10 章
第 13 回	教材の学修：基本教材 1 の 11 章
第 14 回	レポート課題 2：初稿の作成（6 章から 11 章までの中から一つ選択）
第 15 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本語教育を考える際、教育の場（日本国内、国外）、機関（初等教育、中等教育、高等教育）は多種多様であり、対象者も年少者、学生、ビジネス関係者、日本の生活者など多様化している。また、教育の方法も常に変化し、新しい教材が次々と開発されている。本講義では、日本語教育の状況、言語学、異文化コミュニケーション、指導法、評価法、教授法、社会、歴史、教材などの観点から多角的に日本語教育を概観し、個々の環境に適した方法を考察する。</p> <p>以上の目的を達成することにより、世界の日本語教育を適切に考察する能力、日本語教育に関する問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 日本語教育について広く理解し、個々の教育現場に適した日本語教育の方法を多角的に考察する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史や社会環境と日本語教育を関連づけることができる。 ・ 国内外の日本語教育の多様性を説明することができる。 ・ 日本語教材の歴史・変遷を理解した上で、適切に教材を選び、活用することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ manaba folio 上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 ・ manaba folio を通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・ 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 <p>【学修方略（LS）】 （自習）教材と関連文献を熟読する。 （自主研究）課題に関し、事例研究を実施する。 （レポート作成）レポートを執筆する。 （ディベート）他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。</p> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材と関連文献の学修：20 時間 ・ 事例の分析とレポート執筆：15 時間 ・ リピート遂行と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：10 時間 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 1 締切：6 月末（初稿）（最終稿提出期限：前期締切日） ・ レポート課題 2 締切：8 月末（初稿）（最終稿提出期限：前期締切日） <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 1 締切：11 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：後期締切日） ・ レポート課題 2 締切：12 月末（初稿）（最終稿提出期限：後期締切日） 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式（構成、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性） * 後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 * その他のレポートは、最終稿にて評価する。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 ・ 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。 ・ 各レポート提出時に、レポート執筆チェックリストをあわせて提出すること。チェックリストは、学期開始後、manaba 上に掲載する。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 遠藤織枝 教材名： 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』（三修社，2020） ISBN: 978-4-384-05973-1 2,400円+税（予定，2020年3月出版予定）
	日本語教育の状況，歴史，言語政策，第二言語習得，教授内容，評価，社会，カリキュラムなどの観点から多角的に日本語教育を概観している本である。世界各地の日本語教育現場のレポートも掲載されており，日本語教育の多様性が理解できる。
参考図書	国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より』Web版 (https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html)
履修上のポイント	基本教材1は日本語教育の基礎的内容なので，いずれの章も十分理解してほしい。特に，歴史や社会情勢との関係を理解し，日本語教育のあり方を考えること。また，それらを理解した上で，地域・対象者を具体的に想定し，コースデザインを検討すること。 参考図書にあげた国際交流基金の調査結果は，2018年度調査の結果が発表される可能性があるため，確認すること。 ピア・レスポンスの活動を通して，他者の視点をも理解しながら，日本語教育に関する理解を深めること。
レポート課題 1	第1章，第2章，第3章を読み，歴史や社会情勢がどのように日本語教育に影響を及ぼしていたかを考察し，さらにこれからの日本語教育のあり方を論じる。（4,000字～5,000字） 留意点： 歴史的事実と日本語教育の関係を把握して，現在における学習者のニーズの変化を理解して，考察すること。「引用」と「自己の考察」部分を明確に分けて記述すること。
レポート課題 2	第2章，第3章，第7章から第10章を中心に読んだ上で，地域・対象者を1つ設定して，どのような日本語教育を実践するか，コースデザインを検討する。国際交流基金の海外の日本語教育の現状 2015年度調査の結果をニーズ把握の参考にする（2018年度調査の結果が公表されていたらそちらを使用）。地域は国内外を問わない。（3,000字～4,000字） 留意点： シラバス，教材，具体的な活動（1例），評価の方法を含める。コラムも参考にする。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 吉岡英幸・本田弘之 教材名： 『日本語教材研究の視点-新しい教材研究論の確立をめざして』（くろしお出版，2016） ISBN: 978-4-87424-716-7 2,400円+税
	日本語教材を多角的な視点から検討した教材であり，日本語教材研究の概要，現状が把握できる。日本語教材がどのように変遷したか歴史的な検討，日本語教材の多角的な視点からの分析，どのように使用されるのかという分析が行われている。
参考図書	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版本冊』（スリーエーネットワーク，2012） 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』（スリーエーネットワーク，2013） ISBN: 978-4384056495, 978-4883196463 各2,500円+税 深澤のぞみ・本田弘之『日本語を教えるための教材研究入門』（くろしお出版，2019），ISBN: 978-4874248201 1,800円+税
履修上のポイント	日本語教材を分析することにより，日本語教育の方法や内容，さらには習得を理解することが可能であるため，基本教材2を通して教材分析の方法を理解すること。 ピア・レスポンスの活動を通して，他者の視点をも理解しながら，日本語教育に関する理解を深めること。
レポート課題 1	第4章，第5章を中心に読んで，日本語教育において教科書を使用する際の利点と問題点を整理した上で，教科書を選択・使用する際に検討すべき点について論じる。（3,000字～4,000字） 留意点： 第7章，第9章を参考にすること。「引用」と「自己の考察」部分を明確に分けて記述すること。
レポート課題 2	日本語教科書1冊以上を対象に（1冊でも可），第4章，第5章，第9章のいずれかの分析のポイントを参考に，教材を分析する。（3,000字～4,000字） 留意点： 受身など文法項目の取り上げ方（第4章），コーパスとの比較（第5章），導入の方法（第9章），いずれかの視点から分析すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 9 章～第 10 章
第 11 回	コースデザインの検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章～第 6 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章～第 9 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章, 第 5 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章
第 10 回	外国語教材の分析
第 11 回	外国語教材の分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	英語学特講	担当者	C. S. ラングハム	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	Objective: To acquire a broad knowledge of linguistics through reading introductory texts and develop a set of skills to identify and solve key issues. Students should also demonstrate leadership and communication skills. By reflecting on what has been learned, students will be able to comprehend and explain their studies from a global perspective.		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 Students will learn basic concepts and essential terminology that will provide a stepping stone to further study in linguistics. Through reading textbooks and doing independent study, students will develop an understanding of key topics and issues in linguistics.</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 Students should understand the range of topics in the field of linguistics. Students should be able to retrieve information from the Internet on topics in linguistics that are relevant to their interests and situations. Students should be able to pick up topics of interest from the textbooks and comment on them in written and / or spoken form.</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Focus on selected topics from the textbooks. Write short summaries of those topics selected. Do further reading and research on the topics.</p> <p>【学修方略 (LS)】 Students will receive feedback and advice on format and content of their reports. Based on feedback from the teacher, students will revise and resubmit a final version of their report. Through repeated feedback and rewriting, students will improve the content of their report step by step and, in the process, develop their writing and critical thinking skills.</p> <p>【学修時間】 Time required 45 hours per report Reading the textbook and supplementary texts - 25 hours Writing a draft of a report, first submission, - 10 hours Revising the draft, submit final version - 10 hours</p>		
スケジュール	<p>Semester 1: Two reports. One to be submitted by the end of May and the other by the end of June. The final deadline is September 17th.</p> <p>Semester 2: Two reports. One to be submitted by the end of October and the other by the end of November. The final deadline is January 12th.</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	Students will be awarded points for the following aspects of their written work: organization, format, references, logic, discussion, originality and creativity.
	観察記録	40%	Students will access Manaba to take short quizzes and surveys. They will also be required to write short comments on parts of the textbook that they are particularly interested in. Points will be awarded for keeping to the deadline and regularly submitting work.
履修者への要望	Although students will be reading the same textbooks, they will have the freedom to focus on topics that particularly interest them and write about those topics as a major part of their assessment. The teacher will be posting comments and advice on Manaba, so it is important for students to maintain access to the site. I look forward to working with you and helping you to achieve your learning goals.		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名 : Jean Aitchison 教材名 : <i>Aitchison's Linguistics, Teach Yourself</i> , (2010) ISBN 978-1-4444-10596-4 \$16.99
	Introduction to the text This book is an ideal guide to linguistics. It is a straightforward introduction that will help students to understand basic concepts, essential terminology and key issues. It contains many accessible examples, and has short summaries and lists of 'things to remember' in each section. It provides a good base for further more specialized studies.
参考図書	P. H. Mathews, <i>Linguistics: A very short introduction</i> , Oxford (2003) 1,297 Yen
履修上のポイント	Students should read the textbooks as thoroughly as possible and take notes on parts that are particularly relevant to them. As you read, please consider any topics or content areas that you would like to concentrate on when writing a report. If you have problems or want advice, please contact the teacher in charge.
レポート課題 1	Read parts 1 and 2 of the book. Pages 3 to 117. 留意点 : Refer to the textbook and take notes on subjects of interest that will be potential topics for written assignments
レポート課題 2	Read part 3 of the book. Pages 123 to 182. 留意点 : Students should refer to current journals in the field of linguistics and select 2 papers to read on a topic of interest.

基本教材 2	
教材の概要	著者名 : 教材名 : 教材 1 と同じ
	教材 1 と同じ
参考図書	R. L. Trask & Bill Mayblin, <i>Introducing Linguistics: A graphic guide</i> , Icon Books (2014) Kindle 688 Yen
履修上のポイント	Students should read the textbooks as thoroughly as possible and take notes on parts that are particularly relevant to them. As you read, please consider any topics or content areas that you would like to concentrate on when writing a report. If you have problems or want advice, please contact the teacher in charge.
レポート課題 1	Read part 4 of the book. Pages 195 to 230. 留意点 : Students should access relevant Internet sites on the subject of Linguistics and gather information that can be used in written assignments.
レポート課題 2	Read part 5 of the book. Pages 235 to 274. 留意点 : Students should try to find relevant literature on some of the topics in part 5 of the book and if possible include it in the assignment.

基本教材 1

第 1 回	Introduction to linguistics: basic concepts and essential terminology
第 2 回	Teaching materials, Part 1, 1 and 2.
第 3 回	Teaching materials, Part 1, 3 and 4.
第 4 回	Choose one topic of interest and search for related academic papers and reports
第 5 回	Report 1, Planning and first draft outline, discussion and feedback
第 6 回	Revision of plans and draft with additional material where necessary
第 7 回	Preparation of completed draft and feedback and discussion as necessary, final draft
第 8 回	Teaching materials, Part 2, 5.
第 9 回	Teaching materials, Part 2, 6. Identification of topics of interest
第 10 回	Teaching materials, Part 2, 7.
第 11 回	Teaching materials, Part 2, 8.
第 12 回	Choose one topic of interest and search for related academic papers and reports
第 13 回	Report 2, Planning and first draft outline
第 14 回	Revision of plans and draft with additional material where necessary
第 15 回	Preparation of completed draft and feedback and discussion as necessary, final draft

基本教材 2

第 1 回	Moving on to The Outer Rings and Changes and Comparisons
第 2 回	Teaching materials, Part 3, 9 and 10.
第 3 回	Teaching materials, Part 3, 11 and 12.
第 4 回	Choose one topic of interest and search for related academic papers and reports
第 5 回	Report 1, Planning and first draft outline, discussion and feedback
第 6 回	Revision of plans and draft with additional material where necessary
第 7 回	Teaching materials, Part 4, 13 and 14.
第 8 回	Teaching materials, Part 4, 15.
第 9 回	Teaching materials, Part 4, 16. Identification of topics of interest
第 10 回	Teaching materials, Part 4, 17.
第 11 回	Teaching materials, Part 4, 18.
第 12 回	Choose one topic of interest and search for related academic papers and reports
第 13 回	Report 2, Planning and first draft outline
第 14 回	Revision of plans and draft with additional material where necessary
第 15 回	Preparation of completed draft and feedback and discussion as necessary, final draft

科目名	英語教育方法論特講	担当者	ロックリー トーマス	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>内容言語統合型学習 (Content and Language Integrated Learning (CLIL)) は、第二言語の語彙力とコミュニケーション能力を養うことができるようになることを目的とする。この学習方法は、世界中のより多くの国で取り入れられてきている。CLIL の特徴は、時事問題や異文化理解についてのトピックに触れ、共同学習を通し、言語知識・スキルを高めるだけでなく、様々な思考力を育成できることである。</p> <p>このコースで受講者は、CLIL の理論について学び、実際の学習環境において自身で授業計画を作成し、振り返られるようになる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 CLIL の理論と学習環境での実際の実践について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) CLIL の基盤となる概念枠組みを説明できる。 2) CLIL がどのように受講者の学習状況で使用されるか、または使用される可能性があるかを説明できる。 3) CLIL の概念的枠組みを使用して、受講者は CLIL の実践例が書かれている論文を読み調べ、2つ (あるいは3つ) の事例を要約し、CLIL としての妥当性などを講評する。そして自身の教育環境や状況に対応する CLIL レッスンを計画し、計画についてレポートを執筆する。 4) CLIL の理論と実践について学んだことを振り返る。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>(自習) 教材の熟読、さらに、オープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等) による自律的学習</p> <p>(自主研究) 参考文献の検索と熟読</p> <p>(レポート作成) レポートの作成・教員によるコメントにレポート推敲</p> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教材の学修: 20時間 2) レポート執筆: 10時間 3) レポート推敲と最終の完成 (教員の添削指導): 15時間 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1 締切: 6月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 8月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1 締切: 10月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 12月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。
	観察記録	20%	レポート添削への対応等
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1) 積極的な態度でCLILにアプローチすること。 2) 批判的な態度で実践的な計画を考える。全てが完璧であることを期待しない様にする。 3) レポートは担当教員のフィードバックのよる書き直しを繰り返しながら (特に英文の場合) 最終稿が締め切りに間に合う様、計画的に進めること。締め切りに変更が必要な場合は担当教員まで連絡する。 4) 日本の教育現場で英語を教える受講者は、英文でレポートの作成を行うこと (不可の場合は日本語でも可。) <p>！重要！後期に使用する教材は早めに購入すること。購入が難しい場合は担当教員にメールで相談すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名 : Do Coyle, Philip Hood, David Marsh 教材名 : CLIL – Content and Language Integrated Learning (Cambridge University Press, 2010) 約 4 4 0 0 円 (税込み)
	この本は CLIL に関する包括的な概要を提供している。この理論をまとめ、実際の実践について説明している。
参考図書	1) CLIL 新しい発想の授業 – 理科や歴史を外国語で教える!?!。笹島 茂 他 (三修社、2011年) 2750 円 (税込み) 2) OER (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等)
履修上のポイント	CLIL の概念的枠組みは、柔軟な方法で言語指導と学習改善を提供している。受講者は常に、CLIL について学んだことを自身の環境や状況に関連付けるように心がけること。
レポート課題 1	基本教材 1 Chapter 1 ~ Chapter 4 を読んで、CLIL の概念的枠組みについて解説する (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 留意点 : 参考図書と OER で探した文献も参考に、CLIL の授業法を考える。
レポート課題 2	基本教材 1 Chapter 5 ~ Chapter 8 を読んで、CLIL が学習環境でどのように使用されるか、または使用される可能性があるかを説明する。 (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 留意点 : 参考図書と OER で探した文献も参考に、CLIL の授業法を考える。

基本教材 2	
教材の概要	著者名 : Liz Dale and Rosie Tanner 教材名 : CLIL Activities with CD-ROM: A Resource for Subject and Language Teachers 約 4 4 0 0 円 (税込み)
	この本には、順序関係なく使用できる幅広い CLIL アクティビティが含まれている。付属の CD-ROM には、印刷可能な CLIL アクティビティが入っている。受講者は、自分の CLIL レッスンを計画するのに役立つアイデアと活動を活用することができる。
参考図書	1) CLIL (内容言語統合型学習) : 上智大学外国語教育の新たな挑戦 第 3 巻 授業と教材。 和泉 伸一 (ぎょうせい, 2016年) 1760 円 (税込み) 2) Understanding Language Classroom Contexts – The Starting Point for Change. Martin Wedell and Angi Malderez (Bloomsbury, 2013) 約 3 8 0 0 円 (税込み) 3) OER (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等)
履修上のポイント	参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業計画を考案する。
レポート課題 1	基本教材 Part 1 ~ Part 3.6 を読んで、学習した CLIL の概念的枠組みを使用して、環境や状況にに合わせて CLIL 授業計画作成する、および CLIL の実践例を批判的に分析する。 (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 留意点 : 参考図書と OER で探した文献も参考に、CLIL の実践を考える。
レポート課題 2	参考図書 3 「OER から調べた 2 つの論文」を読んで、CLIL の理論と計画を作成して学んだことを振り返る。 (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 留意点 : OER で探した文献も参考に、CLIL の実践法を考える。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 1
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 2
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 3
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 4
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 5
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 6
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 7
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 8
第 12 回	OER による研究論文の検索と分析（例 adamemia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等）
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の Part 1 と Part 2 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の Part 3.1 と Part 3.2 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の Part 3.3 と Part 3.4 の学修
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の Part 3.5 と Part 3.6 の学修
第 5 回	OER による研究論文の検索と分析（例 adamemia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等）
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	CLIL の実践例を論文で調べて、1 つの事例を要約し、CLIL としての妥当性などを講評する。
第 10 回	CLIL の実践例を論文で調べて、1 つの事例を要約し、CLIL としての妥当性などを講評する。
第 11 回	授業計画
第 12 回	授業計画
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ul style="list-style-type: none"> データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。 データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。 データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。 収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>【学修時間】</p> <p>1つのレポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 レポート課題の執筆：10 時間 Manaba-Folio へのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間 		
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のレポート課題 1：6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 1 のレポート課題 2：8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のレポート課題 1：11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 2 のレポート課題 2：12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に) 0 点となります。 レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出までに Manaba-Folio 上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税</p> <p>著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p>
	<p>(1)は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税</p> <p>鎌原雅彦他（編著）『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房，1998年） ISBN:978-4-76-282109-7 1,500円+税</p> <p>三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所」は，教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし，「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所」は，教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にする。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す項目について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所 留意点：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題 2	<p>以下の2項目のうち，一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。 留意点：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては，調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 南風原朝和（著） 教材名： 『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p>
	<p>この教材は，統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年）ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税</p> <p>松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税</p> <p>繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & A で知る統計データ解析 Dos and DON' Ts』（サイエンス社，2008年）ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材を読んでも統計学の基本がわからない場合は，参考図書の『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会）を参照すること。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す用語について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 留意点：各用語あたり800字以内を目安に，3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし，その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題 2	<p>与えられたデータをもとに，統計解析ソフト（BellCurve Excel 統計，㈱社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い，その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。 留意点：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（manaba folio）に添付する。統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし，掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

基本教材 1

1回	教材に基づく学修(1)	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材1；1章，2章）
2回	教材に基づく学修(2)	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材1；3章，4章）
3回	教材に基づく学修(3)	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材1；5章，6章）
4回	教材に基づく学修(4)	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材1；7章，8章，9章）
5回	教材に基づく学修(5)	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材1；10章，11章，12章）
6回	教材に基づく学修(6)	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材1；13章，14章，15章）
7回	レポート課題の作成(1)	レポート課題1：①，②の草稿作成
8回	教材に基づく学修(7)	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材2；第1章）
9回	教材に基づく学修(8)	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材2；第2章，第3章）
10回	教材に基づく学修(9)	調査的面接法のデザイン（教材2；第4章）
11回	教材に基づく学修(10)	調査的面接法のガイドライン（教材2；第5章）
12回	レポート課題の作成(2)	レポート課題1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
13回	レポート課題の作成(3)	レポート課題1の最終レポート作成
14回	レポート課題の作成(4)	レポート課題2の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15回	レポート課題の作成(5)	レポート課題2の最終レポート作成

基本教材 2

1回	教材に基づく学修(1)	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第1章）
2回	教材に基づく学修(2)	分布の記述的指標（第2章）
3回	教材に基づく学修(3)	相関係数の把握と回帰係数（第3章），確率モデルと標本分布（第4章）
4回	教材に基づく学修(4)	統計的推定・検定（第5章），平均値差と連関についての統計的推定（第6章）
5回	教材に基づく学修(5)	線形モデルの基礎（第7章），偏相関と重回帰分析（第8章）
6回	教材に基づく学修(6)	実験デザインと分散分析法（第9章）
7回	教材に基づく学修(7)	因子分析法（第10章）
8回	レポート課題の作成(1)	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
9回	レポート課題の作成(2)	レポート課題1の最終レポート作成
10回	実習課題(1)	サンプルデータを確認し，Excelと統計解析ソフトの操作に慣れる
11回	実習課題(2)	①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す ②任意に2つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する
12回	実習課題(3)	③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する
13回	実習課題(4)	④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する
14回	レポート課題の作成(3)	レポート課題2の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15回	レポート課題の作成(4)	レポート課題2の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	アラセキ 荒関 ヒトシ 仁志	期間	通年	単位数	2
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは、大変に使い勝手が良く、ややもすると統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、統計計算を形の上では、結果を得ることができますが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見されます。</p> <p>本講座では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、数式を解さず、統計の基本概念を理解します。</p> <p>また、直接表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の「基本的な考え方を理解する」ことを修得の目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>統計が身近な疑問や現象に答えてくれる、比較的身近な数学であることを理解してください。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解してください。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 本講座では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指します。</p> <p>② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解します。</p> <p>③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指します。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネットなどを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読してください。【SBO①】【30 時間/1 冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出します。【SBO②&③】【45 時間/レポート件】</p> <p>※) なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <p>① レポートの受付は何時でも行っていますので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完了レポートを提出することを推奨します。【5月～】</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1ヶ月前には草稿レポートをなからず 1本は提出をしてあること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。</p> <p>※) レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。
	観察記録	30%	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか・ 「検定、分散分析」について、議論することができるか。
履修者への要望	<p>特にありませんが、数学が苦手な人、特に統計処理が嫌いな人が受講することをお勧めします。教科書や学習する項目は、基本的なことが主ですので、数学や統計処理が得意な人はご遠慮ください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>向後千春, 富永敦子, 『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年), 著者名: ISBN:978-4-77-413190-0, 1,680円+税 教材名: または、 涌井 貞美, 『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年), ISBN: 978-4-86064-345-4, 2,000円+税</p> <p>本書は, 数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明する初心者でも気軽に読めて楽しく統計を学習できる教科書です。 本書では, ある「ハンバーガー屋さん」で起こる様々な疑問や問題を, 統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく教科書です。とても面白く, 統計データ分析の基本を理解できます。統計が苦手と思っている人には最適な教科書です。</p>
参考図書	<p>涌井良幸, 涌井貞美『Excel で学ぶ統計解析』(ナツメ社, 2003年) ISBN:978-4-81-633418-4 2,500円+税 菅 民郎『Excel で学ぶ統計解析入門 第2版』(オーム社, 2003年) ISBN:978-4-81-633418-4 2,800円+税 小島 寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年), ISBN: 978-4-478-82009-4, 1,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>本講義は, とにかく数学が苦手な, 統計学が苦手な人のための講義です。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け, 実際のデータを, 表計算ソフトを使うことで数式での説明を介さずに, 統計データ処理を解説しています。ですから, 理屈で統計処理を理解するのはなく, 体で統計データ処理を理解することを目的としています。 先ずは, 手を動かして統計データ処理を行ってください。</p>
レポート課題 1	<p>t 検定と分散分析とは, 何を説明するための統計処理なのかを, 自分の言葉で説明してください。特に, 標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成してください。 留意点:</p>
レポート課題 2	<p>身の回りのデータを 1 組用意し, t 検定を行い, 統計処理の結果を考察してください。また, 別な身の回りのデータを 1 組用意し, 分散分析を行い, その統計処理の結果を考察してください。 留意点:</p>

基本教材 1

第 1 回	統計と確率の関係について理解する。 特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解してください。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。
第 2 回	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第 3 回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する
第 4 回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第 5 回	有意差検定の考え方の基本を講義します。第 4 回に講義した「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第 6 回	カイ 2 乗検定の考え方を講義します。有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ 2 乗検定を使って具体的な計算方法について理解する。
第 7 回	カイ 2 乗検定の計算の実際を講義します。特に、実際のデータを使って、カイ 2 乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第 8 回	有意差検定で、最も利用されている「t 検定 (対応なし)」の考え方を講義します。特に、正規分布と t 分布、その信頼区間の関係について理解する。
第 9 回	実際のデータを使った「t 検定 (対応なし)」の計算方法について講義します。計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も講義します。また、「t 検定 (対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第 10 回	実際のデータを使った「t 検定 (対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第 9 回講義に「t 検定 (対応なし)」との違いについても理解する。
第 11 回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t 検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特に F 分布と F 値の考えを理解することを目的とします。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第 12 回	実際のデータを使った「分散分析 (1 要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第 13 回	「分散分析 (2 要因)」について「分散分析 (1 要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析 (多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第 14 回	実際のデータを使った「分散分析 (2 要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。
第 15 回	半年間行った講義内容を、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	アラセキ 荒 関 ヒトシ 仁 志	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトを自由に利用できるようになってきました。その結果、今までは利用するのが難しかった、多変量解析などが簡単に誰でもが利用できるようになりました。しかし、統計処理が簡単に利用できる反面、その基本にある「数理工学的背景」をまったく理解しないまま、データ処理を行っているが学生が多く見られるようになってきました。本講座では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数理工学的背景と前提条件、利用条件などを理解します。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを目指します。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 本講座では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学習します。特に、「相関」、「重回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の取得を目指します。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」ですが、その理論的背景を理解することを目指します。</p> <p>② 多変量解析が単純な数理工学的仮定（線形関係）の上に成り立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小2乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解することで、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指します。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネットなどを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読します。【SB0①】【30時間/1冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出します。【SB0②&③】【45時間/レポート件】</p> <p>※) なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p>		
スケジュール	<p>【後期】</p> <p>① レポートの受付は何時でも行っていますので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完了レポートを提出することを推奨します。【9月～】</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り1ヶ月前には草稿レポートをなからず1本は提出をしてあること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。</p> <p>※) レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。</p>		
成績評価	種 別	割合	評 価 基 準
	レポート	70%	「多変量解析」の数理工学的仮定を理解できたか。 「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。 エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。
	観察記録	30%	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。
履修者への要望	<p>数学が苦手、統計処理が嫌いな人が受講してください。ただし、そのような数学を毛嫌いしている人は、必ず「統計基礎Ⅰ」も併せて受講してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>向後千春, 富永敦子, 『First Book「統計学がわかる」—回帰分析・因子分析編—』 著者名: (技術評論社, 2009年), ISBN:978-4-77-413707-0, 1,680円+税 教材名: または, 石井 俊全, 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014), ISBN: 978-4-86064-398-0, 1,900円+税</p> <p>理数系以外の学生で, 統計を知っている人でも「回帰分析」や「因子分析」など, データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くありません。本書では, 極力数式を使わず, このデータの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組み解説します。アイスクリームショップを舞台にアルバイトのアイちゃんと一緒に悩みながら, 気温とアイスクリームの売り上げの関係など, あなたの研究・調査に応用の利用可能な話題を取り上げます。親しみやすい話題と物語の展開で, 比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解することができます。</p>
参考図書	<p>上田太一郎, 小林真紀, 渕上美喜 『Excel で学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年) ISBN:978-4-27-406556-9 2,800円+税 菅 民郎 『Excel で学ぶ多変量解析入門 第2版』(オーム社, 2007年) ISBN:978-4-27-406708-2 2,800円+税 加藤剛 『知識ゼロでもわかる統計学シリーズ 本当使えるようになる多変量解析超入門』(技術評論社, 2013年) ISBN 978-4-7741-5630-9 1,980円+税</p>
履修上のポイント	<p>本講義では, 多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とします。ここでは数式による説明ではなく, 表計算ソフトを使って, 直接データを統計処理します。ですから, 数学が苦手な人でも「相関」や「回帰分析」, 「因子分析」の基本的な仕組みを理解することができますので安心して受講してください。</p>
レポート課題 1	<p>「相関」と「回帰分析」, 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを, 自分の言葉で説明してください。特に, 説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成してください。 留意点:</p>
レポート課題 2	<p>身の回りのデータを用意し, 「相関」と「回帰分析」, 「因子分析」を計算し, それぞれの結果を考察してください。 留意点:</p>

基本教材 1

第 1 回	本講義で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本講義で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第 2 回	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間に関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第 3 回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第 4 回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎 I で学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第 5 回	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第 6 回	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について理解する。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。
第 7 回	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第 8 回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは 1 ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第 9 回	多変量解析における「相関行列」について理解する。第 3 回の講義で説明した「相関」との関係を理解し、「相関行列」の利用方法を理解します。
第 10 回	多変量解析における「相関行列」について理解する。第 3 回の講義で説明した「相関」との関係を理解し、「相関行列」の利用方法を理解する。
第 11 回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し（別途資料あり）、主成分分析では何が分るのかも理解する。
第 12 回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、各自主成分分析の計算方法を理解する。
第 13 回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する（別途資料あり）。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第 14 回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。
第 15 回	半年間行った講義内容を多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	アラセキ 荒 関 ヒトシ 仁志	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>ゲーム理論は、経済学から発展してきたが、現在では経営学、政治学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ化学など様々な分野に応用されている。</p> <p>社会における個人の行動を決定する場合、他人との相互作用を考慮した意思決定をすることが重要になってくるが、この相互作用を考慮した意思決定を数学的なモデルとして研究されているのがゲーム理論である。</p> <p>本講座では、このゲーム理論における基礎的な考え方を習得することを目的とする。</p> <p>具体的には、ゲーム理論の基礎である「囚人のジレンマ問題」を理解し、それを元により現実的な意思決定である「交渉ゲーム問題」を理解することを最終目標とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>「囚人のジレンマ問題」を理解し、ゲーム理論に特有な「利得」や「ナッシュ均衡」の考え方を数学的に理解する。さらに、より一般的な意思決定と考えられている「交渉ゲーム」を学習し、そこで使われている「混合戦略」や「期待利得」の計算方法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 身の回りの様々な意思決定過程をゲーム理論的志向で考察できることを目的とする。</p> <p>② それによって合理的意思決定とは何かを理解する。</p>		
学修方法 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 教科書の「非協力ゲーム (または囚人のジレンマ問題)」を熟読し理解する。【SBO①】【30 時間 / 1 冊】</p> <p>② 次に「交渉ゲーム」を理解すること。その上で、レポートの設問に回答してください。その際、教科書の数学的な取扱いで分からない部分などがあれば、担当者に質問し、個人指導を受けることを基本とします。SBO②【45 時間 / レポート件】</p> <p>なお、交渉ゲームを理解するためには、繰り返しゲームなどの理解が必要になりますので、「囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」以外の章の知識が多少必要となりますので、他の章もザッと読まれることをお勧めします。SBO②【30 時間 / レポート件】</p>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <p>① レポートの受付は何時でも行っていますので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完了レポートを提出することを推奨します。【5 月～】</p> <p>※) レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。</p> <p>② 教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿レポートをなからず 1 本は提出をしてあること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。</p> <p>※) レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	ゲーム理論の基礎を理解できているか。 身近な問題に対してゲーム理論を応用できるか。
	観察記録	30%	ゲーム理論の数学的仕組みを理解できているか。
履修者への要望	<p>特にありませんが、様々な「関係」について興味をもっている学生の受講を歓迎します。</p> <p>ゲーム理論の理解には数学が必要となりますが、本講座では簡単な四則演算程度で十分です。また、数学に興味があるが、難しそうと思っている学生も大歓迎いたします。数学的取扱いは、別途担当作成のレジメで解説します。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>岡田 章, 『ゲーム理論・入門』(有斐閣アルマ, 2014), ISBN 978-4-641-22028-7, 1,900円+税 著者名 : 円+税 教材名 : または 武藤/滋夫, 『ゲーム理論入門』(日経文庫—経済学入門シリーズ)(日本経済新聞社, 2001年), ISBN-10: 4532108292, 860円+税</p> <p>本テキストは, ゲーム理論の数学的説明が平易に正確に記述されており, 国内のゲーム理論の書籍の中では, 最も優れた書籍である。内容は「囚人のジレンマ」に始まり, 「繰り返し囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」など多義にわたっている。</p>
参考図書	<p>Avinash K. Dixit (著), Barry J. Nalebuff (著) 『The Art of Strategy: A Game Theorist's Guide to Success in Business and Life』(W W Norton & Co Inc, 2010年) ISBN 978-0-393-33717-4, 1,770円+税 (Amazon.co.jpにて2016年11月現在) 川越 敏司(著), 『行動ゲーム理論入門』(エヌティティ出版, 2010年), ISBN:978-4-7571-2258-1, 2,700円+税 岡田 章(著), 『ゲーム理論 新版』(有斐閣; 新, 2011年), ISBN 978-4-641-16382-9, 3,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>数学的取り扱いで疑問が生じた場合には, 悩まず担当教員に質問をしてください。初めは, 数学的取り扱いに慣れていない院生には難しそうに思える数学的表現も, その基本は非常に単純な構造であることが分かりますので, ご安心して受講してください。</p>
レポート課題 1	<p>囚人のジレンマ問題を身近な事例によって説明し, その時の「ナッシュ均衡」について, 各自の説明してください。 留意点:</p>
レポート課題 2	<p>身の回りの「ジレンマ問題」を取り上げ, 「囚人のジレンマ問題」と「交渉ゲーム問題」で解析し, それぞれの特徴を説明してください。 留意点:</p>

基本教材 1

第 1 回	ゲーム理論の基礎、ゲーム理論の基本用語の習得
第 2 回	意思決定モデルと期待効用仮説の理解、ゲーム理論の理解のための確率の基礎知識
第 3 回	戦略ゲームの理解
第 4 回	ナッシュ均衡点の考え方の理解
第 5 回	支配戦略とミニマックス戦略の理解
第 6 回	囚人ジレンマと合理性、パレート最適の理解
第 7 回	ナッシュ均衡とパレート最適性の理解
第 8 回	協力ゲームと非協力ゲームの理解
第 9 回	ゲームの木と先読み推論の理解
第 10 回	展開ゲームの戦略の概念、部分ゲーム完全均衡点についての理解
第 11 回	繰り返しゲームとフォークの定理の理解
第 12 回	不確実な相手とのゲーム理論における不完全完備ゲームの理解
第 13 回	不確実な相手とのゲーム理論とベイズの定理の関係の理解
第 14 回	交渉ゲームの理解、特にナッシュの公理の理解
第 15 回	交渉の戦略ゲームにおけるナッシュ交渉解の実践的理解